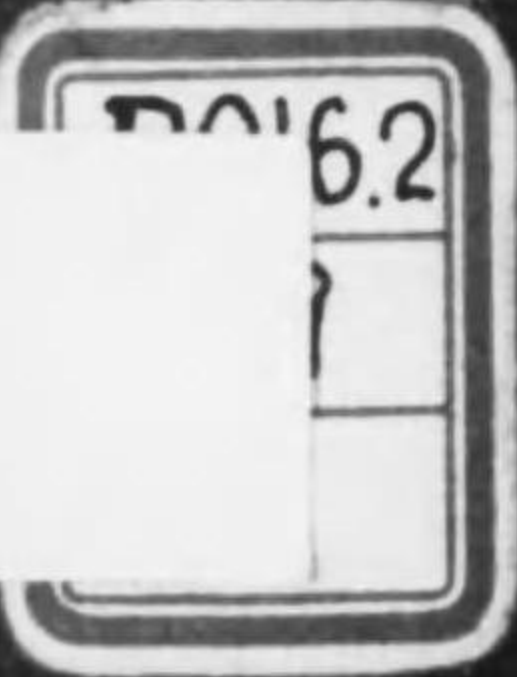


R016. 2-F997



1200500765540



圖書館要覽



始



圖書館要覽



府立圖書館金景
所在辨天册二十畝地龍頭山公園內

|| 金山府 ||

R
016.2
F99



はしがき

図書館は社會教育機關として最も重大な使命を持つてゐることには十一萬府民の有する釜山府立図書館は如何なる現状にあるか、そして如何なる藏書を有してゐるか、それを汎く紹介せんがためにここにその図書館要覽を編輯せり。

昭和二年八月

釜山府

釜山府の概會

寄贈本

戸口と人口

戸數 九、一四戸
人口 一〇六、三三三人
(昭和元年末)

地球上の位置

北緯 三十五度零八
東經 百二十九度零二

面積

東西 二里五町 南北 二里三十二町
面積 二〇七方里 地積三千六百町歩

氣温及雨量(十五年度)

氣温 最高 三二、二度
最低 八、七度
雨量 一三三八、三耗



~~270-124~~

目次

□沿革と規模	一
□図書館の種類	一
□圖書と新聞雜誌類	一
□資産	二
□朝鮮内公立圖書館の比較	三
□圖書館の使命	四
□府立圖書館の現状と將來	五
□圖書館條例	一〇
□圖書目録	三
第一部		
(一) 圖書館費一般圖書類	三
(二) 記念文庫一般圖書類	一〇
第二部		
(一) 圖書館費鮮滿圖書類	一一
(二) 記念文庫鮮滿圖書類	三九

複製本

□沿革と規模

府立圖書館の創設は實に明治三十四年日本弘道會釜山支部の創設に始まつたもので明治四十四年に釜山教育會がこれを繼承し其頃現在の建築が成り大正八年に府立圖書館として府の經營に移し今日に到つたものである。
爾來藏書は年々増加して來たがその施設は舊態の儘でとりわけた變改は行はれなかつた現在二階建一棟と書庫一棟とを有し閱覽室は二階の三十坪のみで六十名の閱覽者を容るゝに足る。

□本圖書館の種類

公立公開通俗圖書館

- (一) 公の所有に屬し
- (二) 本によつて經營せられ
- (三) 公衆をして自由に利用せしむ

□圖書と新聞雜誌數

圖書の選擇及良書の増加は圖書館の生命でそれによつて又閱覽者をも誘致する。本圖書館

の昭和二年三月末圖書の現在数は左の通りである。

圖書館所屬藏書（内洋書三九九冊）九、六五二冊 外に雜誌三十三種
 紀念文庫藏書 一、〇九二冊 新聞三十四種
 計 一〇、五一一冊

次に圖書の分類と圖書整理の適不適は閲覧上にも重要なことであるが當府立圖書館は先づ之れを和漢書と洋書とに分類し更らにそれを一般圖書と鮮滿圖書とに分類した茲に特別に鮮滿圖書を分類したことは鮮滿關係圖書の増加を一目瞭然とし尙内鮮の鮮滿研究家の爲に便せしむるためで朝鮮の關門都市の圖書館として機宜のものと信ずる。その昭和二年七月末狀況左の如し。

一般圖書類 八、九五八冊
 鮮滿圖書類 七五八冊

□資産

資産狀況左の如し（大正十五年三月狀況）
 敷地 三百十六坪七合五勺
 建物 本館 三十坪 價格 三千六百八十圓

其他十六坪 價格 二千二百四十圓

圖書 價格 七千一圓九十三錢

器具 價格 六百三十三圓九十錢

□朝鮮内公立圖書館の比較

大正十四年三月末現在に於ける朝鮮内圖書館は官立朝鮮總督府圖書館の外公立八、私立二十二を算してゐるが漸次此の圖書館事業は發達の道程に向ひつゝある同年末の各公立圖書館の狀況は左の通りである。

名 稱	圖書冊數		開館日數	閲覧人員	本年度收入		同 支出
	和漢書	洋書			閲覧料	其他收入	
京城府立圖書館 (目下京城府買收)	一〇、〇九四	三六五	三九六	六九、〇七四	一、一五七	一六、三三六	
京城圖書館	一四、〇〇〇	四〇〇	三二八	五九、二四八	八〇〇	六、〇五五	
開城圖書館	二、五三四	一三四	二一九	七、一〇六	七四	四	
同公立小學校 簡易圖書館	二〇〇	一	三三八	三五〇	
忠清北道簡易圖書館	二、二二七	一	二八九	二、一九〇	...	二、一〇九	

洪城簡易圖書館	三七	:	二五八	五五〇	:	:	:
全南文庫	九五四	二	三〇九	四、八五九	:	一、四〇二	一、三九七
大邱府圖書館	五、七五五	八〇	三〇一	五、七三五	一四五	:	八、四七七
釜山府立圖書館	七、八三〇	二八七	二七三	一四、七六三	:	一七〇	二、三五六
慈城郡圖書館	一四八	:	二七七	二七七	:	六〇	六〇
清津圖書館	五三	:	一〇六	三六五	五五〇	八〇	八〇

四

□圖書館の使命

人生は人格活動の連続で圖書館は之れが教育機關である。

- (一)、人格活動は生涯的なるを以て之れが進展の手段方法である廣義の教育修養も又生涯的でないならない。
- (二)、又人格は萬人萬具にて其形式は平等なるを以て之れが教育は全体として部分的差別的階級的ならず全般的平等的にして機會の均等を得せしめなければならぬ是れが近代教育的デモクラシーの高唱せらるゝ所以である。
- (三)、又人格教育は其が生涯的なる以上出來得るだけ經濟的に達成せしめなければならぬ

(四)、又人格活動の標目たる理想は古今に通じ内外に悖らざるべきものなるを以て此教育は知新と温古とを兼ね且内外に渉るやう努めなければならぬ。

(五)、又人格に尊ぶ所は自覺的自定にあるを以て之が教育は出來得る限り自發的能動的にして個性の發揮に力めねばならぬ。

如上の任務は其性質上到底學校教育で充すことは出來ないそれは即ち各人の努力と公共圖書館の協力によつて初めて達成せられ得る所のものである實際人生の教育は生涯的であるが故に讀書も亦生涯的である而して公共圖書館は全く公衆のための學校である従つてその圖書館の任務は又圖書の利用的奉仕の方面であるとも云ひ得る。

□府立圖書館の現状と將來

吾人の一生が、果又吾々の社會繼續が常に學業の道場であること云ふ見解によるならば、圖書館が國民の精神生活を培ふ上に最も有意義の機關であると云ふ事は喋々を要しないことである。従つて學校が學生の教育場所であると同様に圖書館は終始吾々の智識の糧を供給する社會教育の場所である、尙又現代の教育制度では其の新生國民が普通教育のみを経て直ちに實社會に漕き出す状態であるから、此意味からも圖書館は必要缺くべからざる社會教育機關である。

曾つて歐米各國が歐洲戰亂後、圖書館を成人教育機關として、急速度に發達せしめたこと云ふが首肯されることである。我が國でも近年此の問題は隨分に世論を喚起して都鄙舉つて圖書館の新設改革に着手してをるようであるが、其結果漸く全國三千餘の施設を見るに到つたのである、然し乍ら我が國の圖書館設備は尙到底先進文明國のそれには較ぶべくもない、即ちアメリカの二萬餘館を有するなどには未だ甚だ懸隔がある、況んや其の内容の貧弱なことに至つては想像するに難くないものである。

そこで朝鮮の圖書館經營狀況は如何なる情態にあるかと云ふに、之れ又た云ふ迄もなく、更らに一層貧弱で殊に地方都市のそれに至つては、圖書館らしい設備を有するものは至つて少い状態である。其の不振の理由を消極的見地から評すれば勿論種々あるが、然かしながら由來此の圖書館事業なるものは、現在の民度から常に民衆のより高い智識と、より良き道義心を訓育涵養するのが目的であるから、其の經營は力めて積極的性質を有するものでなければならぬ。即ち現在の圖書館は現在の民度を標準として設備し、常により高い標準に向上せしむる様其の發達を期せねばならぬ。

此の見地から釜山府立圖書館の現状が果して今日、半島第二位の大都市の圖書館として、果又半島の關門都市として、内地文化流入の門戸として、更らに又比較的教育程度の高い内地人の多數居住する都市の圖書館として、相等の設備を有してをるかどうか、同館の現

狀に鑑みて詮議すれば、恐らくは圖書館事業に心ある府民の等しく隔靴搔痒の遺憾を嘆せぬものはないであらう、現在閱覽室の如き僅かに三十坪を有し、六十名の閱覽者をも入るゝに狹隘を感じてをる、其の藏書も未だ八千餘冊を有するに過ぎない。然し同圖書館の成績を見るに大正十五年の狀況によれば開館日數二百八十三日、入館延人員一萬九千二百二十七人であつたが、その閱覽人員も勿論、十萬三千の人口を有する釜山府としては入館數が甚だ少い、其の少いと云ふことは府民の讀書力の低いと云ふ譏りを免れないことである、然しながら吾々はかゝる譏りをする前に、先づ其の理由が那邊にあるかを考えねばならぬ。その理由を圖書館事業の積極的方面から考ふれば圖書館それ自体の發達が鈍くて緩慢であることである、言ひ換ふれば、其の設備なり、其の藏書が貧弱であると云ふことになる。事實十萬三千餘も人口を有する都市の唯一の圖書館としては甚だ不充實である、他の一つの原因は府民の讀書熱が未だ低いと言ふ事である、然しながら茲に言ふ讀書熱の低いと言ふ事は圖書館を通じての意味であつて、獨自購讀の狀況に付てではない、それでも前者の意味の讀書熱も、年と共に向上しつゝある事は事實である、即ち現在府民の圖書館利用の好學熱と圖書館に對する親しみの高まりつゝある事は左の事實でも窺われる。

- (一)、閱覽者が年々著しく増加しつゝあること。
- (二)、讀書濟みの圖書を一冊宛でも寄贈されるものあること。

(三)、亡人の追善の爲めに其の藏書を寄附されること。
 (四)、慈善團體に向つて喜捨せられつゝあつた法事、其他の寄附金を或は其一部を寄贈されるものあること。

(五)、當府の人が遠來の友人を案内して館を訪問するものあること。

そこで吾々は、我が府立圖書館を如何に改造するかと云ふ問題になるが、若しそれを極めて積極的に考ふるならば、根本的には其の改築移轉新築等も必要に迫つてゐる。然しながらそれには餘程膨大な經費が必要である、經費の多額を要すると云ふ事は目下の處、經營主体である現在府の經費にまつ事は到底のぞみかねるされば先づ其の實現の至難でない而かも手近かな要急の事項から考へて行かねばならぬ。

其の要急の事項とは内容充實の問題である、内容充實の問題とは藏書の増加と重要圖書の充實と云ふことである、勿論内容の充實することは、又自然に入館者を増加することにもなり率ひては根本的に圖書館の改築改造の必要をも喚起することになる、從來もこの意味合ひの圖書館充實については、注意して來たのであるが、近時の圖書界は學術の日進月歩につれて、其の著述が甚だ多種多様に亘つて増加しつゝある、而かも其の價額が甚だしく膨脹してゐるので、これも又到底今日の貧弱な府の圖書館經費のみでは、満足に其の購入蒐集は困難の状態である、事實必要缺くべからざる圖書迄も購入は不可能の状態である。

然らば如何にして圖書の充實を計るべきか當惑するが、然しながら吾々は思ふ、かゝる民衆的な設備の改善改革は一方又篤志家の社會的奉仕に俟つても意義あることである。即ち既に述べた如く圖書館に對する特志家の圖書及び金品の寄贈寄附は圖書館事業を良く助長する社會的に意義ある行爲である。

更に圖書館の改善について言及するならば、其の設備の上にも手近に改善の必要あるものがある、それは婦人圖書室、新聞閱覽所を現在の一般圖書室から隔離すること、又入館者用便所の新築、玄關口の改善で同じく要急の問題として改善の必要に迫つてをる。

府立圖書館の現状が斯くの如くであることを知つて、他方に同圖書館の任務が我が釜山府文化機關の一であり、其の文明要素の一であると云ふことを知るならば當然に其の經營は釜山にふさわしく、更らに一層釜山府の文化的施設として、誇るに足るものたらしむることとは、半島關門都市の面目である、又其の結果は聽て實際に府民の民衆生活の上にも其の効果が顯象さるべきものである。

由來半島の新文化は内地から半島の中央に入り、更らに北上南下する傾向があるが、それには止むを得ない事情があるとしても、吾々は占めて其の精神文化だけは、此の關門都市としての地理的人文的に光榮ある特殊使命の上に、又我が釜山府の發展の爲に其の範を他に示したきものである。實に我が府立圖書館の完備は府の社會教育機關の誇りであると同

時に又半島精神文化開發の役割をも持つ一つである。
 述べ去り述べ來れば民族の發展する處に圖書館が充實し圖書館の完備する處に文明が榮ふ
 ること云ふ言葉をも思はせるが、此の意味からも眞に府立圖書館の改造は今回愈々建設され
 ることになつた、公會堂の設立と共に府民の民衆生活の上に有意義のもので、改造を要す
 るものである。而かもそれは教養に對する一般民衆の要求が昂まるにつれ、又高まるべく
 夙に改善發達を期せねばならぬものである。

◇釜山府圖書館條例

(大正十一年七月發布)

- 第一條 本館ハ各種ノ圖書ヲ蒐集保存シ公衆ノ閱覽ニ供ス
- 第二條 開館時間ハ左ノ如シ但シ時宜ニ依リ伸縮スルコトアルヘシ
 自三月一日至九月三十日
 午前八時開館 午後六時閉館
 自十月一日至二月末日
 午前九時開館 午後五時閉館
- 第三條 定期休館日左ノ如シ但シ臨時休館スルトキハ其ノ都度之ヲ公告ス
 一、紀元節、天長節祝日

- 二、毎月曜日及前記外ノ祝祭日ノ翌日
- 三、春秋曝書日(各季各五日間)
- 四、自十二月二十九日至一月三日 六日間
- 第四條 圖書ノ閱覽ハ無料トス
- 第五條 圖書ハ館外ニ搬出スル事ヲ得ス但シ府尹ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第六條 公衆ノ閱覽ニ供スル目的ヲ以テ本館ニ圖書ヲ委託セムトスル者ハ目錄冊數住所氏
 名ヲ詳記シ府尹ノ許可ヲ受ケタル後現品ヲ送付スヘシ
- 第七條 圖書ノ委託期間ハ滿六ヶ月以上トシ期間後ニ在リテハ委託者ノ請求ニ依リ隨時之
 ヲ返還ス但シ本館ノ都合ニ依リ期間ノ内外ニ拘ラス返還スルコトアルヘシ
- 第八條 委託圖書ハ本館所藏ノ圖書ト同一ノ取扱ヲ爲ス
- 第九條 本館圖書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ府尹ノ指定ニ從ヒ現品又ハ相當ノ代金ヲ辨
 償セシム但シ天災其ノ他避クヘカラサル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第十條 府尹ニ於テ必要アリト認ムルトキハ學校官衛其ノ他ノ団体ニ對シ巡回文庫ヲ發行
 スルコトアルヘシ

附 則

本條例ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

圖書目錄

Faint, illegible text, likely bleed-through from the reverse side of the page.

圖書目録

第一部 (一) 圖書館費一般圖書類

圖書名	著者又ハ發行所	冊數	圖書名	著者又ハ發行所	冊數
第一門	總計	一八四	釋宗演	一	
●神書類	國書發行會	三四	達摩耶菴	一	
神道叢說	加藤玄智	一	加藤吐堂	二	
神道の宗教的考察			近重眞澄	一	
大系圖(和本)		三〇	加藤咄堂	一	
神ながらの道	内務省神社局	一	神谷篤倫	一	
皇道	中村三郎	一	大内悅賛	二	
●宗教書類		一五〇	鎌倉禪話	一	
			現代佛教家人名辭典	一	
			附葛藤		
			通俗參禪ノ活路		
			新話		
			維摩經講話		
			物庵禪話		
			大乘佛教百話		
			禪の要術		

無門關	中原鄧州	一
日蓮聖人の教義	田中智學	一
佛教統一論大綱論	村上專精	一
歐米の佛教	渡邊海見	一
實教的經驗の種々	佐藤敏彦	一
日蓮主義綱要	本田日生	一
日蓮聖人正傳	釋宗演	一
叩けよ開かん	釋宗演	一
臨機應變	釋宗演	一
日蓮と其の教訓	高山喜内	一
佛教解題	大野西菴	二
賀川豊彦	中野芳照	二
西田天香	遠島欽二	二
倉田百三	遠島欽二	二

耶蘇	廣瀬哲士	一
處世禪	丸山小洋	一
修養禪	〃	一
健康禪	〃	一
淨土三部經	岩野真雄	一
懺悔の生活	西田市太郎	一
懺悔の生活	高楠順次郎	一
佛教國民の理想	開宗紀念傳道部	一
立教開宗	本田日生	一
東洋文明の權威	田邊善知	一
施陀羅が子日蓮	田邊善知	一
辨榮聖者遺稿要集	ミオヤノヒカリ社	一
光明の生活全	山中考之助	一
佛教講話	山中考之助	一

詩禪一味	鈴木考順	一
佛教の新研究	河瀬秀治	一
宗演禪話	釋宗演	一
現代阿含經	釋宗演	一
竟譯阿含經	釋宗演	一
同 佛教道体經集	釋宗演	一
同 華嚴經	釋宗演	一
同 楞伽經	釋宗演	一
同 佛敎護國經世諸經	釋宗演	一
同 維摩經解深密經	釋宗演	一
同 大般涅槃經	釋宗演	一
同 大品般若經	釋宗演	一
同 法華三部經	釋宗演	一

佛所行讚	大谷光演	一
法悅の一境	大谷光演	一
箇中の樂地	釋宗禪	一
枯葉微笑	釋宗禪	一
創世時代の父祖の生活	末世の福音社	二
救は反省より	田中玉堂	一
佛教本論	鳥尾小彌太	一
佛教講演集	加藤咄堂	一
世界三大宗教	戸川殘花	一
基督教の眞理	シエーハイン	一
碧山嚴錄講話	田中達	一
宗教哲學概論	帆足理一郎	一

世界宗教史	金山龍重	一	十種疑問落草談	後醍醐天皇勅問 弘位月明團師奉對	一五
宗教と科學	保安定三郎	一	新約物語	中村春雨	一
句佛上人	沼夜濤	一	舊約全書	米國聖書會社 日本橫濱印行	一
世界の宗教	文明協會	一	訓真舊約全書上篇	〃	一
宗教の眞諦	〃	二	新約全書	〃	一
佛陀の教	小林一郎	一	舊約全書	〃	二
佛教因果律	春田祐寶	一	文明宗教法論	藤堂融纂譯	一
默雷禪話	竹田默雷禪師	一	各國宗教法論	田中達	一
基督教史	藤谷深谷	一	佛教管見	岩崎忠四郎	一
宗教より見たる 日蓮聖人の國家觀	田邊善智	一	耶穌の奇蹟	貴山幸治郎	一
大乘教大綱	加藤咄堂	一	日本基督教會一覽	大内青巒	二
佛陀論	惠美忠成	一	遺教經講義	稻垣眞我	一
			遺傳と宗教の實際		

日蓮宗聖典	柴田一能	一	碧嚴錄の現代的解説	井上秀天著	一
修養點晴錄	稻垣眞我	一	社會の宗教	椎尾辨匡著	一
信仰の第一印象	〃	一	正法眠藏	烏尾得庵	一
恩寵の宗教	多田昇	一	金剛經講義	釋宗演	一
初代佛教	白石喜之助	一	光明藏三味布鼓	陸鉞巖	一
通俗禪學八十則 問答	薄混庵有田子	一	傳光錄布鼓乾坤	同	二
大乘酒落禪	尙榮堂	一	眞宗興隆緣起	小栗憲一	一
佛教舊刊小冊	〃	一六	增教宏智禪師領布告	古田梵仙	二
新舊約全書舊刊	〃	一八	教旨大要	千家尊福	一
漢曹洞教會修證義	陸鉞巖	一	現身佛と法身佛	姉崎正治	一
天理教の梗概	澤田善次郎	一	臨濟宗臨濟慧照禪師	〃	一
切支丹由來記	不明	一	天道湖原	米國丁韓良	一

第二門

●哲學類

綜合哲學原理	スベンサー著 藤井宗平譯	五六	ベルグソン 哲學の眞髓	稻毛 誼風
宇宙大觀	先民山人	一	ダゴール哲學と文藝 書齋より街頭に	吉田 次郎
宗教哲學	姉崎正治	三	死の研究	田中王堂
一年有半	中江兆民	一	唯物史觀研究	河上 肇
續一年有半	敬文館	二	同解說	堺 利彦
人格的宇宙觀	蟹江義丸	一	生命論	阿部余四男
孔子研究	內山鐵枝	一	人生	トルストイ著 三浦實造譯
易學顧問	朝永三十郎	一	横眼で睨んだ人生 哲學に於ける 科學と宗教	高島 米峰
哲學綱要	高瀬武次郎	一	シヨロベン ハウエル隨想錄	文明協會
支那哲學史		一	生存競争の哲學	增富平藏譯
				賀川 豊彦

現代思潮十講	ルドルフオイクン 大思想家之人生觀	桑木 嚴翼	神人合一	京 忠美
清 賞 論	奧田義人	一	哲學汎論	藤井健次郎
大日本主義	上泉德彌	一	言語哲學	濱田健次郎
人類の運命	文明協會	一	森林哲學生の實現	タゴール
哲學の話	山路彌吉	一	無學の聲	野依 秀一
支那思想史 日漢文明異同論	金子 淑	一	古今先哲修養訓	目黒 慎作
哲學の話	哲學研究所	一	正教と國家	愛々社
名僧の人生觀	須藤新吉	一	二百年後の吾人	加藤 弘之
論理學通論	服部宇之吉	一	近哲學宗統史	竹越與三郎
儒教と現代思潮	黒岩周公	一	哲學夢話	井上 圓了
天人論		一	井上博士と基督教徒	關 泉作
			同終結論	ク

世界三聖論	高橋五郎	一	世渡りの道	新戸部稻造	一
新人生觀	高橋五郎	一	東西文明ノ調	文明協會	一
不死の誓	佐野天聲	一	生活戰術	浮田和氏	一
コムト全	小林郁	一	大正の青年と常國の前途	德富猪一郎	一
西洋哲學史	大西祝	二	如斯	森村市右衛門	一
●倫理及論理類			人格養成論	文明協會	一
至誠と努力	澁澤榮一	二	國民の精心的基礎	加藤咄堂	一
社會道徳上の共同責任	姉崎正治	一	志を立つる道	足立栗園	一
外來思想と我が國民道徳	深作安文	一	如何にして一身の方向を定むべきか	マーデン博士	一
辨榮聖人人生の歸趣	辨榮聖人	一	人道主義	上原德彌	一
遺稿要集	大畑祐	一	大日本主義	德富猪一郎	二
活修養と處世道路	前田咄雲	一	國民小訓		
心の掃除	加藤咄雲	一			

獨立自修	鎌田榮吉	一	常識百話と生活の趣味	遠藤隆吉	一
人は何時覺醒するか	高橋五郎	一	今後の青年	樋口紋太	一
處世と自己の爲めに修養	井上如眞	一	趣味と修養	八波則吉	一
國民道徳と個人道徳	菊地謙二郎	一	人間の價値	海老名彈正	一
孝道	澤柳政太郎	二	倫理學	桑木嚴翼	一
前途の望	柳一宣	一	倫理學講義	野口援太郎	一
朝の生命に燃えて	田中芳子	一	倫理學精義	藤井健次郎	一
親ころ、子ころ	藤井健次郎	一	教育的倫理學	中島力藏	一
リナップ氏倫理學の根本問題	政教社	一	努力論	幸田成行	三
大西郷遺訓	丸山小洋	一	論理學	渡邊又次郎	一
解脱の妙味	大畑裕	一	倫理問題の發達	綱島榮一郎	一
新修養と向上發展					

論語解義	青年訓	松陰先生女訓	へ草日本の道義	現代國民の修養	武士道實話	自ら進で取れ	作汰書全	忠經	國民道德の要旨	常識の修養	報徳教要飲	
簡野道明	杉山廿日	吉田庫三	土岐横	堀田相角	岡三慶	樋口秀雄	小田切浦乃	法貫すゑ	渡邊彰譯	穂積八東	蘆川忠雄	井口丑二
人道講話	修學實驗談	苦學大奮闘録	人生之活路	自尊の修養	學生の進路	福翁百話	處世要訓	成功錦囊	心膽陽明學と偉大	論理史評實	精神論語の論語	
精神修養社	中島力藏	鈴木明	赤司繁太郎	波多野鳥峰	相良忠造	時事新聞	本田増次郎	實業之日本社	仕藤庄太	哲學院	的場鐵之助	

青年訓	論語國字解	立志訓	道二翁道話	鳩翁道話	聖訓綱要	女子處世訓	修養立志編	日蓮聖人の感激	立志之礎	猛志と成功	續學生訓
大町桂月	宇成之	立野政次郎	中澤道二	柴田鳩翁	中村實治	増田義一	福澤先生	本多日生	松村介石	村上俊藏	大町桂月
格言教訓全書	日本道德論	處世訓	聖徳	浮世莊子講話	西國立志編	名將言行録	乃木大遺訓	忠經	愚翁道話	西洋倫理學史	奉公小解
西垣堯則	西村茂樹	大町芳衛	關熊吉	忽滑谷快天	自由閣	岡谷繁實	猪谷不美雄	渡邊彰譯	清水榎太郎	吉田靜致	鞍智芳章

●心理學書類

最新式 實驗催眠術講談	精神靈道	心理學通俗講話	殺活氣 合術	自在氣 合術	憤怒及復讐の 心理的研究	透視と念寫	陶宮術と處世話	弛緩心理論	廣告心理學	性慾と近代思潮	女心と世の中
村上辰五郎	桑原俊郎	上野陽一	能代彦太郎	浪源浪英	福來友吉	森友道	文明協會	井關十二郎	羽太銳治	高島平三郎	

結婚の内面的考案	性愛	能率の研究	心理學	學齡ヨリ 丁年迄ノ 精神研究	夢學	生命の舞踏	千里眼	我が人生觀	小彌太 一平 人生問答	孝子をして 今日在らしむは 實驗心理學精義
文明協會	大阪市民博物會	西周譯	榊保三郎	高峰博	岡田龜次郎	竹内楠三	江原小彌太	岡本一平	江原小彌太	早稻田大學出版

聚團心理	石門心理提要	心靈學講話	エマアソン 人生論 全書八卷	ク三種 代表偉人論	應用優生學	價値の哲學	夢の心理	近代立法の精神	恐慌論	生物學的人生觀	比較心理學全
文明協會	柴田寅三郎	テセルチス著 高橋五郎譯	戸川秋骨	平田秀木	文明協會						

變態性慾心理	近代犯罪學說	余は如何にして 余が煩悶を解きしか	大死生觀	趨異遺傳の進化	群衆の心理	人性論	民族發展の心理	リズム學提要	情死の研究	心靈萬能論	神秘的半獸主義
同	同	教文館	加藤咄堂	文明協會	同	同	同	新文	大道知一	高橋五郎	岩野泡鳴

心理學十四講義	元良勇次郎	一	人の運	大町桂月	一
心理學綱要	元良勇次郎	一	ペーコン論說集	玄黃社	一
教育的心理學	湯原元一	一	歐洲大戰の 人理的教訓	文明協會	一
容貌と人格	無然郎	一	讀心術修養	蘆川忠雄	一
生理的心理學	渡邊千次郎	一	意志の鍛練	同	一
實驗心理呼吸正座法	杉浦幽齋	一	自然界的審理美	大月乘山	一
人事百話	福羽美靜	一	鎌倉中の消息	鐵華書院	一
人情論	村井弦齋	一	靈界の妙趣	宮川經輝	一
丈夫の本領	天眼鈴木力	一	頭腦明快法	蘆川忠雄	一
女性の觀	加藤咄堂	一	煩悶記	岩本無縫	一
青年の敵	野依秀一	一	心學道の話	奧田賴枝	一
偉人修養錄	風間禮助	一	魔術と催眠術	近藤嘉三	一

△力實踐談	藤原信軒	二	再刊書經集註	嵩山堂	一
◇力養成法	菅原如庵	一	補義莊子因	永榮屋東四郎	六
人格修養 處世要活 新榮根譯論	倉田熱血	一	大學章句	記事ナシ	一
一語千金	民友社	一	中庸章句	同	一
心術の理法神と幽靈	近藤嘉三	一	孟子集註	同	四
近代思想家の人生觀	高木斐齊	一	論語集註	同	四
遺傳と人性	齊藤茂三郎	一	善惡種蒔鏡	小田龜次郎	三
天才論	ロンアロオゾオ著 辻潤著	一	四書講義	博文館	三
開病術	醫學博士 小酒井不木著	一	四書片假名付	藤谷虎三	一
青年期ノ心理及教育	同志社教授 和田琳能譯	一	四書論語上下	記事ナシ	二
ワンドの民族心理學	文學博士 桑田芳藏	一	孟子注疏	同	七
大學街義補	六〇	一	孟子斷	同	二

語孟字義	孟子釋解	刊孟千古義序	論語大全	中庸大學	同	孝經大義	鄒魯大旨	禮記	易經	忠經集註	易經集註
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
二	一四	三	五	一	一	一	二	八	二	一	二五
轉福哲名術極秘書	講孟剖記	家註方記	五常五倫名義	論語大全	朱名臣言行錄	聖賢問答	家語	淮南鴻烈解	論語註疏	孟子學說	論語徵集覽
小倉鐵道	大山塙吉	小林新兵衛	前川文左衛門	風月庄左衛門	苗木晏正	冢田叔貌	同	同	同	松村正一	小川彦九郎
五	五	二二	一	二	六	三	六	六	一〇	一	二〇

論語徵	四書大宗集註	莊子荀子	簡子列子管子	管子韓非子淮南子	淮南子楊子	文中子鵬冠子	小學本註	利學	第三門教育書類	不良兒教育法	天化人育	不良少年
記事無シ	同	同	同	同	同	同	同	西	乙竹岩造	石田新太郎	モリソン著 小鹽高恒譯	
五	五	五	七	六	六	六	二	二	二	一	一	一
現代教育者ノ眞生活	御話の研究	時局ニ關スル教育資料	兒童生活と其の教養	歐米教育ノ印象	歐米教育雜感	海外發展と我國教育	タルトンプランの學的基礎と最近の經驗	普通學講義錄	學校に於ける個性教育の研究	米國の都市教育組織		
稻毛 誼風	水田 光	文部省	文明協會	野上俊夫	川田正徵	同	永田 稠	吉良信之	佐洛實然	竹下和治	東京市政調査	
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

兒童教育と演劇	坪内雄藏	一	小學校生命と性問題	關原吉雄	一
國民小訓	富徳猪一郎	一	不良少年に就て		一
西洋教育史潮概説	石川謙	一	タルトン式 學習の實施經驗	吉田惟孝	一
實驗女教要論	女徳福山女學校	一	長崎高等商業學校	同校	一
綜合教育教科書	帝地方行政學會	二	諸學入學 試験問題答案詳解	金刺深次	一
先哲教育夜話	田制佐重	一	普通受驗全書		一
教育と宗教	谷本富	一	新復式教育	小林佐源治	一
愛兒の養と育て	東京市社會教育課	一	ブラグスチズムと その教育學說	渡邊政盛	一
同志社一覽	同志社	一	天才兒の教育	杉田直樹	一
選拔法概論	檜崎淺太郎	一	現代教育學說選集	吉田熊次	一
入學試験問題集	山本光康	一	文化と個性と教育	城戸幡太郎	一
現代文化と教育	國民教育獎勵會	一	改造教育	文明協會	一

退出ヨリ充實生活 出勤マテ充實生活	丸納内人	一	學制五十年史	文部省	一
國家教育 原理實用教育文學	外教育資料調查	一	中國文教科書參考	光風館	二
教育大震災美談慘話 資料之	佐々木吉三郎	一	米國現時の教育	民友社	一
實業之 日本社渡邊小學校團 遣体視察報告	文務省 實業學務局	一	小學校教授細目	東京高等師範	一
公民教育講演集	北垣恭次郎	一	新教育者の修養	谷本富述	一
歴史教授	金刺芳流堂	一	訂正裁縫教授書全	岩間惠美	一
入學試験 問題答案詳解	文明協會	一	教育小史	金滿堂	一
普通學講義錄	帝地方行政學會	一	師範教育學	田中治六	一
世界教育史要	加藤咄堂	一	學校衛生書	坪井次郎	一
全國學校名鑑	後藤朝太郎	一	小學校管理法	和田豐	一
平和大詔述義	林	一	實踐管理法	大村芳樹	一
克復大詔述義		一	學校管理法百問百答	日下部三之介	三
效壇上の漢學		一	教授法同		三

海外教育史要	西村正三郎	教育學問答	富山房	一
內國教育史要	同	教授法問答	同	一
新令學校管理法	寺内 穎	慶應義塾の學風	秀英 舍	一
實用新教育會	金滿 堂	學校管理法問答	小野英之助	一
譯如氏教育學	有賀長雄譯	兒童性質研究論	桐谷文平	一
小學實驗教授法	渡邊 政吉	國民教育論	民友 社	一
全科實驗教授法	牧野寅太郎	教訓新 日本	戶野みちる	一
實用學校圖	育成 會	增補 世界讀本	池邊 義象	一
歐米教育觀	近藤九一郎	兒童の見たる 各科教授	阿竹 台東	一
教案編制法	杉山 正毅	無邪氣太郎の教師 なる批評	佐々木 晚成	一
實驗學校管理法	日下部三之介	通俗學校管理法	安田 精忠	一
教育問答百問百答	湯本武比古	實行主義教育學	河上 清	一
學童百話				一

日本教育政典	日下部三之介	帝國教育會講演集	記事 ナシ	一
我が小學校の教育問答に對する獨英米教育家の意見	横山 榮次	商業教科書	天城 安政	一
學級教授の弊及び其の救濟法	與良熊 太郎	禮儀作法のあやまり	峰星 三郎	一
商業道德教科書	同 文 館	統合歴史教科書	齋藤 斐章	二
小學校令精義	教育行政研究會	中學東洋小史	下村三四吉	一
言文教育學全	富山 房	最中學地理教科書	山上萬次郎	一
實驗女子教育の仕方	高橋 秀太	中學國文學史	弘文 館	一
新編外國商工地理	飯島 和一	複式教授法講話要項	記事 ナシ	一
補習商業入門	濱田 四郎	學制問答	長崎縣有志	一
修日米商業地理	飯島 和一	親の罪	三土 忠造	一
女子大學評論	福澤 先生	教育法令	文部大臣官房	一
新女大學學	木下 邦昌	小學教育改良論	加藤 弘之	二
教授術				一

東京高等學校一覽	同學校編	一	革新ノ途ニアル 唱歌教授法要領	江藤富次郎	二
山高等商業學校一覽	同校編	一	全國專門學校入學試 驗問題模範解答	南光社	一
長高等商業學校一覽	同校編	一	思潮學學教育 現代の社會化	田制佐重	一
全國中等學校地理歷 史科教員第七回協議 會及滿鮮旅行報告	東京高師內 同協議會	一	國民讀本	大隈重信	四
東京高等師範學校 第一臨時教員養成所	同校編	一	教育勸語衍義	重野安繹	二
財團東京女子醫學 法人專門學校校則	同校編	一	神のむしへ	大阪朝日新聞社	一
早稻田大學々則	同校編	一	實業款民讀本	普通教育研究會	二
奈女子高等師範學校	同校編	一	補習用國語漢文初步	同	二
第三臨時教員養成所	同校編	一	最實業補習讀本	同	二
東京外國語學校一覽	同校編	一	實科讀本全	橫山德次郎	一
附第十二臨時教員 養成所	同校編	一	日本點字說明	文部省	一
米高等工業學校一覽	同校編	一	國語點字說明	八波則吉	一
圖書館經營の 理論及實際	同校編	一	文修養讀本		一
中央大學々員會名簿	同校編	一			一

中學國文教科書	吉田彌平	一〇	荷風全集	永井壯吉	五
小學理科教科書	三省堂	二〇	川柳やなぎ樽	飯島竹次郎	二
小學讀本		一二	羅睡錄	細川肇	一
●第四門文學			芭蕉句集評釋	小林一郎	一
櫻牛全集	高山林次郎	六	日本の科學界	文明協會	一
鄭鑑錄	細井肇	一	藝術の理解	神原泰	一
山本有三戯曲	山本有三	一	外國文學研究	外國文學會	一
影ま聲	阿部次郎外三名	一	死せる魂	國民文庫	二
・新案女子手紙之文	佐藤梅園	一	オアイツシイ	オチイツシイ 生田長次郎譯	一
久遠の壽	龜岡豊二	一	希臘悲劇六曲	キスヒロク外四名 中村吉藏譯	一
花筐	永山近影	一	杜南に彌耳敦	德富猪一郎	一
中等國文新書	三田村熊之助	一	ストリンドベルグ 童話集	舟木重信	一

江戸文學選集	詩の昆蟲	印象記	新譯歡樂	創作悔恨	近代の英文學	綜合國文學概説	綜合日本文學全史	一九二三年の詩	清代及現代の詩文界	釣の話	我意の人
鈴木敏	文明協會	厨川白村	三上於菟	福田稔	福原麟太郎	三浦圭三	同	田尾榮一	今關天彭	上田尙	平田禿木
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三
ジャンクリストフ	新古今和歌集註解	標準日本文法	エマアソソ論文集	同第六卷文學及社會	サラソボオ	俳諧註釋集	俳句の研究	名家俳句集	俳論作法集	徒然草解釋	淨瑠璃通解
國民文庫	鹽井正男	松下太三郎	平田禿本	同	サラムボオ	佐々醒雪	靱山仁三郎	佐々醒雪	同	塚本哲三郎	山本信吉
六	一	一	二	一	一	二	一	一	一	一	一

俳諧新選劇事記	王陽明詩集	李大白詩集	蘇東波詩集	俳書解題	俳句評釋	連句作法	俳諧史	俳文評釋	寫生文作法	俳句作法	季題解釋
今井松浦	王陽明	同	同	角田竹冷	内藤鳴雪	萩原蘿月	佐々醒雪	森無黃	寒川鼠骨	佐藤紅綠	小峰大羽
一	四	五	六	一	一	一	一	一	一	一	一
月並研究	談曲通解	俳諧江戸調	俳句大全	野菊	西鶴文粹	西鶴の新研究	三又書幹	祝辭五千題	維辭舌	文章講話	商用文精義
高濱虛子	大和田建樹	熊谷無編	今井拍浦	大和田建樹	幸田成行	鈴木敏也	竹越三又	西村實二郎	樋口龍峽	五十嵐力	服部嘉香
一	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

作文講話及文範	書幹謝義	式辭と演説	文章の構成修辭法	書幹文講話及文範	修養福澤先生の手紙	文學錦囊	日本文學全書	冠辭考	土佐日記釋義	新釋徒然草	土佐日記校本
芳賀矢一	高倉嘉七	大町桂月	内山金年	芳賀矢一	鈴木梅四郎	尙木武	博文館	加茂直淵	館林鴻	松雪堂	尙乘堂
二	一	一	一	二	一	一	二	七	二	一	一
文學の折々	謠曲妙文集	日本文學史	文學小論	修辭學	西鶴全集	筆の志ざく	日本小華	大鉉小鉉	花紅葉	英國近代傑作集	近代文學十講
坪内逍遙	中川愛水	森林太郎	鈴木暢幸	武岳又次郎	熊谷千代三郎	大町桂月	宮崎璋藏	大町桂月	鹽井雲	戸川秋骨	厨川辰夫
一	一	一	一	一	一	二	一	一	一	一	一

四〇

虛榮の市	俳人傳	比較文學史	末木和歌索引	末木和歌抄全	平家物語	大平記	浮世草紙	春告鳥	支那文學史	フアウスト物語	羯南文集
サツカレ著 平田禿平水譯	笹川臨風	文明協會	圖書刊	圖書刊	同	同	向陵社	同	經濟雜誌會	新渡戸稻造	梶井盛
二	一	一	二	二	一	一	二	一	一	一	一
明治雄辯集後篇	我樂多龍	歌話	文集	詩集地の子	何處へ行く	前大平記	立花文學士遺稿	御製天津日影	歌集	國民歌集	十六人集
大日本雄辯會	高橋義雄	婦人文庫刊行	同	富田碎花	松本赶	大日本家政學會	正木直彦	彌富濱雄	婦人文庫發行	民友社	新潮社
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

四一

第九同	第八同	第七同	第六同	第五同	第四同	第三同	第二同	日曜講壇	萬葉集略解	鐵蹄夜話	近世文學史論
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	德富猪一郎	民友社	橋千蔭	由上治三郎	内藤虎次郎
一	一	一	一	一	一	一	一	二	六	一	一
教育小訓	文學漫筆	文學斷片	讀書餘錄	第二同	靜思餘錄	青年と教育	生活と處生	寸鐵集	單刀直入錄	第十一日曜講壇	第十同
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	德富猪一郎
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

第三天然と人	第二天然と人	漫興雜記	進歩乎退歩乎	近時政局史論	風雲漫錄	天然と人	人物偶評	人物管見	世間と人間	家庭小訓	處世小訓
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	德富猪一郎
一	一	一	一	一	一	二	一	一	二	一	一
日本女神式大全	愛子文の書簡	正誤りたる文字の讀み方	和漢諷詠類選	和漢朗詠集註	模範美文	新白樂天詩集	中學作文要話	美文形容	フアウスト	經世小策	社會と人物
博文館	蘆川忠雄	高野弦月著	博文館	田中宋榮堂	池内十八紅	井上靈山	高須梅溪	大石新	町井正路	〃	〃
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	四	二

思想と人物	英	育	社	一	實用作文法	久	保	得	二	一
支那文學大綱集	藤	田	創	二	熟語文範 故事出所 文之資料	田	中	謙	一	一
日本大家論集	博	文	館	一	記事文範	北	隆	館	一	一
時務三論	民	友	社	一	日本軍人用文	博	文	館	一	一
春哉庵梧鳳句集				一	文學斷片	民	友	社	一	一
方丈記議義全	岡	野	英	二	小絃集	政	教	社	一	一
支那文學史橋 (先秦文學全)	藤	田	豊	一	斷腕記勝本	大	島	專	一	一
大鏡詳解 花鳥月	落	合	直	一	新編櫻花集	大	竹	み	一	一
日本大文典	同			一	學生作文資料 必提	博	文	館	一	一
日本之陽明學	高	瀬	武	一	雄辯演說法	岡	村	書	一	一
中等國文之資料	柏	村	一	一	徒然草講義	井	上	頼	一	一
新作文百科辭林	大	町	桂	一	俳諧珍本集	博	文	館	一	一

一葉舟	島	崎	春	一	駿台雜話全	小	川	寅	一
日本俳句鈔	東	京	堂	一	譯文中朝事實	山	鹿	素	一
國詩春の卷	國	詩	會	一	新撰榮根譚	蜂	谷	柳	一
候文体書 簡文	内	山	春	一	日本詩記	國	書	刊	一
和歌と俳句	精	華	堂	一	瀨石詩集	夏	目	瀨	二
霓裳歌話	武	島	又	一	李詩講義	森	泰	二	一
古人五百題目録	小	川	寅	一	名家文話	内	田	鐵	一
純日本名家句集	河	俣	清	一	俳句はいかに作り いかに味ふか	内	藤	鳴	一
成程妙々川柳かい	雨	谷	幹	一	金鈴	九	條	武	一
俳諧大要	俳	書	堂	一	比較文學史	文	明	協	一
和歌尙王中類題集	奈	良	屋	一	開イタタ處	大	谷	正	一
血で描いた畫	小	川	未	一	和漢名詩鈔全	結	城	琢	一

新式漢文學問答	修學堂	和歌吳竹集	松浪
皇朝千家絕句全	佐藤六石	和歌八重垣	同
櫻牛全集	高山林次郎	我が文章	大町桂月
風雪集	抱月	醉古堂劍掃	嵩山房
歌之葉	佐々木信綱	作文論文精選	小林篤里
校訂前々大平記	續帝國文庫	花鳥百譜評釋	志田義秀
校訂大平記	ク	文學ニ關スル舊刊	志田義秀
日本歌學全書	博文館	草柴集略解總目錄	小川寅松
散る佐く羅	保家收藏	古今和歌集遠鏡	小川寅松
山陽論	河村積	燕山楚水	内藤虎次郎
徒然草講義全	井上頼文	晶子短歌全集	與謝野晶子
萬葉集釋義錄	畠山健	青上詩鈔	記事ナシ

世界文學物語	内山賢次著	啄木詩集	石川琢木
義人ジミ	前田河廣一郎譯	現代自選歌集	相馬御風
遺稿愛の書簡	ソフイヤ夫人	第二の自然	相馬御風
文學概論	馬場鐵哉譯	昆蟲記	星野仙吉
新支那童話集	本間久雄著	新選俳句大觀	星野仙吉
同印度童話集	池田大伍	桃春	門脇英鎮
日本民話大全	岩井信實	蛇精	田中太郎
童話と童話	童話研究會	詩韻集成乾坤	記事ナシ
日本歌話史	若月一步	枕山先生詩學明辨	記事ナシ
浮世繪	高野辰之	遺稿詩學明辨	大澤善次郎
一茶叢書	藤懸靜也解説	獨抱樓附詩雲峽	記事ナシ
現代抒情小曲選集	信濃教育會	同雨日記	記事ナシ
	西條八十	獨抱樓詩文稿	記事ナシ

淮海學音卷	德富猪一郎	一	新增種玉古狀大全	一
作詩秘要	津田甚三郎	一	民家廣益秘事	一
寐惣先生文集	安田恒太郎	一	高青邱詩鈔	一
囊中錦心	記事ナシ	一	浪華帖假名卷	二
歷代詩學精選	青木嵩堂	一七	仙壽山房詩文鈔	五
詩韻含英同辨		二	香亭藏草	五
唐詩選詩義		一	嚴宮路の枝折	一
近世名家講抄		三	花香月影	五七
蘆洲詩抄		三	李詩講義	一
新詩綜	東京堂	一二	毛詩鄭箋不	五
唐宋詩醇		四七	唐詩絕句	一
和漢三才事始問答	奧村嘉兵衛	三	哀恨集	一

七才子詩集	聲教社	二	古今聖歌集序	一
秋碧唯唐溫詩鈔		一	唐宗詩源	三
詩董狐	明治書院	二	鹽松勝概	三
義士忠臣藏	竹中清助	一	百花園	一
星巖集		八	皇朝千家絕句	一
玉池吟社詩		三	和漢名詩鈔	一
紅蘭小集		一	新文詩	一
揚鶴詩稿	大江章	一	活用在文五千題	一
西海吟稿	河村竹溪	一	御國の言の葉	一
絹水吟社集	渡邊武助	一	中等漢文講義	二
飯峰詩集	淺見倫太郎	一	小作文稽古本	二
墨場心揚	大屋書店	六	實業往復文例	一

女子國文	今泉定介	一	王陽明文鈔	花井千久	四
漢記事論說文例	嵩山堂	二	評論名巨文鈔		三
和漢譯文法	安國富次	一	成台集粹 威應篇右德講合計		一
作文必備	庄司秀鷹	一	嶺西公牘彙存		一
文章軌範字類	岡野竹堂	一	傳習錄講義	東鄭治	二
正續文章軌範獨修	博文館	一	訂小學纂註	岡村屋庄助	五
箋注蒙求		二	箋註蒙求校本		三
初學文軌		三	毛詩國字辨		一〇
纂唐宗八大家文讀本	太田勘右衛門	一六	韓文		四〇
評唐宗八大家文讀本		三一	增評文章軌範		二
默唐宗八大家文讀本	山中平兵衛	三一	增評續文章軌範		三〇
柳文		三六	朱竹垞文粹		一二
世說講義		一〇			

評註東萊博義	六	田舎莊子	一一三
陳龍川文鈔	三	繪本太閤記	三三
新刊用字格	四	關路の指南車	二
知非子影	二	日本百將傳一夕話	一一二
長唄全集日の巻	一	散留佐羅	一
歌辭要解	二	萬葉集釋義錄	一
古文析義	一六	嚴島扁額稿本	五
大岡仁政錄	一〇	歎龍近思錄	六
夢想兵胡蝶物語	九	漫遊記錄	三
佳人の奇遇	一〇	西國立志編	一一
繪本太閤記	二一	春秋國語定本	六
蒙求閣會	二〇	韓詩外傳	五
		嵩山堂	
		中井弘	
		蓬産堂	
		島山健	
		保家收藏	
		松亭金水撰	

草葉集略解	菱屋彌兵衛	三二	百詩帳	庭訓往來	三
三体千字文	外四名	一	三體詩	學門鍵	六
訂隣語大方		五	學門鍵	學門鍵	一
文選音註		一三	學門鍵	學門鍵	一
槐南集		八五	學門鍵	學門鍵	一
俳諧古今抄		五	習靜樓遺藁	習靜樓遺藁	一
十種萬花段		一八	風俗文選	風俗文選	四
增補續文章軌範	須原屋茂兵衛	三	體生帳	體生帳	一
家註毛詩	和泉屋金右衛	一〇	古文眞實乾坤	古文眞實乾坤	二
唐詩選	〃	三	燕堅藁乾坤	燕堅藁乾坤	二
談鋒資銳		二	古文矩	古文矩	一
新撰大和詞		二	詩聖堂詩集	詩聖堂詩集	三

詩語碎錦	近藤元粹	三	詩經講義	雞林唱和集	一
新撰作文活法		四	西匡集	詩聖堂詩話	三
文體明辨		四〇	諸子大意	繪本天草傳記	一
和讀要領	春台先生撰	一	●第四門語學書	和漢名數	一
總經亞細亞言語集	廣部精	四	●第三門一般文學	國語中の梵語の研究	二
書幹初學抄		三	堀部安兵衛	三國千字文全	一
標註訓水滸傳	平岡龍城	八		荒浪平治郎	一
雅庭辭狂集	正親町從一位 權大納言公通郷	五		上田恭輔	一
陽明學雜纂		五		碧瑠璃園	一
破提字子		一			
詩經集註		八			
詩集		二			

なすな懸	勝利を前にして	銀	赤穂義士	お夏文代	巖窟王	人の兄	唯一の氣	父の遺訓	嘘無情	新渦巻	渦巻
坪内士行	島田清次郎	小杉天外	眞龍齊貞水	菊地幽芳	黒岩周六	〃	〃	堀田文麿	黒岩周六	〃	渡邊霞亭
一	一	二	四	三	四	一	二	一	二	一	四
懸と名と金	巖の處女	青蘆集	魂の憂	不如歸	人形の家	黒い眼と茶色の目	無銭探險拾萬哩	獨逸の肉彈	乳姉妹	わがま、	春浪情著集
松崎天民	矢口達	徳富健次郎	沖野岩三郎	徳富健次郎	島村瀧次郎	徳富健次郎	松尾末藏	芹澤登一	菊地清	澁川柳治郎	押川清
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三

天眼通	川徳	稲田一作	英雄と女	人生の旅	騎兵露國橫斷記	人の水	山と水	肉弾	豊太閣	鎌倉武士	曾我兄弟
〃	〃	村上信	小野賢一郎	村上信	小西勝次郎	村上信	黒岩周六	櫻井忠夫	山路愛山	大町桂月	碧瑠璃園
三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
生さぬ仲	百合子	三家庭	殉國記	吾輩は猫である	同	金色夜叉	家なき兒	居字人間學	大正五人男	裏と表	いたづらもの
柳川春葉	菊池清	海老澤亮	高須芳次郎	夏目漱石	尾崎徳太郎	小栗風葉	菊地幽芳	〃	〃	〃	村上信
四	三	一	一	三	一	一	二	二	一	三	二

荒木又右衛門	當世百道樂	島の娘	雲のひゞき	奇縁	明の空	血戦	希臘神話	不知火	女の生命	破戒	寶島
堀口文麿	黒岩周六	佐藤紅緑	渡邊霞亭	田口鏡次郎	本間大尉	杉谷虎藏	長田幹彦	菊地幽芳	島崎春樹	押川春浪	
一	一	二	一	一	一	一	一	二	一	二	
春の流	女は泣いて居る	古城の秘密	大鬘勇	沙翁物語	靈鐘	親鸞聖人	日蓮聖人	楠木正成	罪	日本古事記	櫻田門
佐藤紅葉	松崎天民	押川春浪	江見水蔭	チャールズ・ラム著 小松武次郎譯	小杉天外	碧瑠璃園	ク	渡邊霞亭	松本武夫	澁川柳次郎	赤川源一郎
一	一	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一

社會主義者になつた漱石の猫	お弓の結婚	一萬金	所謂新シイ女	家	カリヴァー旅行記	奇人怪人	失はれし眞珠	奇々軍事探偵	おかめ笹	夜の海	闇を行く人
遠藤無水	宇野吉代之介	澁川柳次郎	坪内逍遙	島崎春樹	佐久間信恭	江見水蔭	沖野岩三郎	松本武夫	永井壯吾	福永挽歌	大泉黒石
一	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一
阿蘭陀お蝶	青山白雲	帝王者	生存を拒絶する人	俠骨三人男	若きいのち	春のゆくへ	蚊さんぼスミス	カイセルの末路	女學校出の文子	曾我物語	白髮鬼
不祥	徳富健次郎	島田清次郎	小司小劍	村上信	沖野岩三郎	長田幹彦	東健而	小田律	西山哲治	小川寅松	黒岩周六
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

火	戰	青	三	有	武	黒	己	廿	高	鹽	金
の	の	鏡	罪	士	水	が	年	野	原	髪	
あ	あ	士	無	道	品	罪	後	長	多	夜	
と	と	春	罪	黒	渡	菊	福	英	助	又	
如	如	風	大	岩	邊	地	原	碧	小	根	
楓	楓	葉	川	周	勝	清	渙	瑠	金	岸	
生	生	葉	錠	六	勝	清	渙	璃	井	重	
寛	寛	葉	吉	吉	二	二	二	園	蘆	德	
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
巨人星	外相の奇病	曾我兄弟	ゲエテ物語	殘月	新	善惡因果物語	佛佐吉	大石内蔵之助	どんぐり山	女禍傳	鮫人
伊藤仁太郎	永代静雄	碧瑠璃園	増田義一	渡邊霞亭	春	堀内新泉	碧瑠璃園	〃	沖野岩三郎	猪狩又藏	谷崎潤一郎
一	一	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一

愛	女	道	草	復	俳	續	虞	鶉	彼	三	行
に	性	草	合	活	諧	俳	美人	籠	岸	四	
戀	と	草	〃	内	師	諧	草	〃	過	耶	
る	愛	夏	〃	目	師	師	夏	〃	迄	人	
水	田	目	〃	貢	高	〃	目	〃	〃	〃	
守	中	漱	〃	清	濱	〃	漱	〃	〃	〃	
龜	祐	石	〃	貢	清	〃	石	〃	〃	〃	
之	吉	一	一	二	一	一	一	一	一	一	
助	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
寄	思	創	若	人	創	老	煙	東	此	彼	西
生	出	作	き	間	作	子	れ	京	一	女	遊
木	の	老	求	の	老	と	る	小	戰	の	記
德	記	子	道	親	子	そ	麻	野	小	運	中
富	〃	の	者	鸞	〃	の	三	司	野	命	島
健	猪	面	の	石	大	子	郎	小	廣	菊	茂
次	狩	猪	嘆	丸	泉	子	三	野	德	地	一
郎	又	狩	き	梧	黒	〃	郎	德	幽	幽	一
一	藏	又	三	平	石	〃	一	一	芳	一	
一	一	藏	一	一	一	一	一	一	一	一	
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	

肉塊	谷崎潤一郎	一	乃木大将	碧瑠璃園	一
女國	田中貢太郎	一	いたづら小僧日記 おてんば娘日記	佐々木邦	一
三大郎	正木不如丘	一	錢屋五兵衛	久世勇三	一
智慧に輝く愛	生田春月	一	栗山大膳	碧瑠璃園	一
兒童の王國	澤柳禮次郎	一	東海道藤栗毛 木曾海道	木田吉太郎	一
世界名話五十種	桃井廣人	一	創作新約	江原小彌太	三
青	森林太郎	一	死線を越えて 太陽を射るもの	賀川豊彦	三
創作春秋	文藝春秋社	一	地上	島田清次郎	三
象牙の塔を出て	厨川白村	一	愛と認識との出發	倉田百三	一
綠雨全集	齋藤綠雨	二	出家と其の弟子	〃	一
白蓮紅蓮	菊池清	一	歌はぬ人	〃	一
立志全力の人	堀内文磨	一	或百姓の家	江濱幸三郎	一

馬鹿野郎	村上信	一	歸去來	國木田獨步	一
僕も嬉しや嫁もろた	奥野他見男	一	其面影	二葉亭四迷	一
別府夜話	〃	一	月夜の美感	高山樗牛	一
おへその宿に泊るの記	〃	一	不言不語	尾崎紅葉	一
人の情	小栗風葉	一	油地獄	齋藤綠雨	一
貞操	菊地寛	二	瀟湘錄	田村初	一
富士	徳富健次郎	一	前燈新話	〃	一
處女作集	島崎藤村	一	蘇子外九種	〃	一
彼女と少年	徳田秋聲	一	きも	青柳長清	一
時は夢なり	岸田國士	一	道	菊地寛	一
落伍者の群	〃	一	雷鳥の目醒むる前	賀川豊彦	一
草路	吉田絃二郎	一	二つの太陽	小杉天外	一

一つの時代	犬養健	一	我一幕物	森林太郎	一
沈む夕陽	長田幹彦	一	アラード	ヘンリック インブセン	一
續ゆく春	ク	一	マクベス	森林太郎	二
麵	前田河廣一郎	一	フアウスト	ク	一
靜	倉田百三	一	シュリヤスシイザ	堀内雄藏	一
時代	村上信	四	水の	ギイドモウバツサン作 吉江孤雁譯	一
立志復活人	堀内新泉	一	コサツケ	トルストイ	一
小説	芥川龍之介	一	世界のオペラ	柴田環	一
黄雀風	芥川龍之介	一	大戦	カンフイルド作 久保正雄譯	一
犠牲	ダヌンチヨ著 森田草平譯	一	此悲慘	久保正雄譯	一
榮の子爲めに	野口亮	一	この自由	ハツチンソン 大城幸雄	一
ゆく春	長田幹彦	一	最後の戦	アルツイバアセフ 長岡義雄譯	一
渡邊華山	碧瑠璃園	一			

迷樓記外十一種	田村初	一	偉人の家庭	榎本秋村	一
全毛狐	和田静子	一	コアラシ	小杉天外	二
鴛鴦譜外三種	田村初	一	換客春雨傘	幸田成行	一
兵庫行兵卒の見たる日露戦争	大月隆伏	一	殘花一輪	市川禪海	一
旅順攻圍軍	志賀重昂	一	立志逆境の勇士	堀内新泉	一
蓋世海戦未來の夢	柳井綱齋譯	一	不	蘆花	一
後	徳田秋聲	一	桑	増本河南	二
叢雲	大町桂月	一	遊客物語	喜次郎 佐次郎	一
水の聲	江見水蔭	一	白露紅露	幸田露伴	一
寄生木	徳富健次郎	一	生きる悲哀	椎名龍徳	一
落花狼籍	村上信	一	炬火おくり	エルライン著 岸田國士譯	一
旅順包圍戦	市川省三	一	別れも愉し	ク	一

照葉	狂言	泉鏡花	加賀騷動記	山路彌吉
十三夜	樋口一葉	伊達騷動記	ク	ク
戀から愛へ	近松秋江	強き戀	小栗磯夫	小栗磯夫
野の花	田山花袋	彈痕	齋藤鐵太郎	齋藤鐵太郎
還魂錄	森林太郎	はつ雁	博文館	博文館
大菩薩峠	中里介山	水野閣老	櫻癡居士	櫻癡居士
去來抄	萩原井泉水	若葉	文瀾	文瀾
毒鼻	里見弴	情愛の學校	三浦修吾	三浦修吾
幻滅と思慕の生活	三浦藤作	自然と人生	徳富健次郎	徳富健次郎
燕山外史	田村初	夢の如し	文泉子	文泉子
西洋娘堅氣	尾崎徳太郎	雷神不動樓	自笑、眞笑合作	自笑、眞笑合作
五三桐	春陽堂發行	草花	夏目漱石	夏目漱石

思ひだすこゝなど	夏目漱石	小説六佳撰	泉鏡花
でたらめ	大阪毎日新聞社	閨秀小説	宮澤春六
懺悔	民友社	文藝俱樂部	ク
趣味の文から	博文館	千紫萬紅	内山正如
強き人	堀田新泉	大書生氣質	岸上操
焼火著	巖谷秀夫	北條早雲	塚原靖
髪題目	泉鏡花	齊武周美談	矢野文雄
槽太鼓	田村昌新	列傳林小説史	表紙破葉
名妓傳	内山正如	遊仙窟評譯	岩井松風軒
日本武士	田村昌新	通俗伊蘇普物語	渡邊温
講談十八番	博文館	新聞記者生立ちの記	郡山經堂
忠臣蔵	文藝俱樂部	戀と名と金	松崎天民

策ある妻	藤澤衛彦	一	藤村集	鳥崎春樹	一
非人娘綴錦 吹分五人娘	自笑其確	一	額の男	長谷川萬次郎	一
底の社會へ	小川未明	一	外文奇譚	蘆花	一
エムテンの奮戦	宮家封男譯	一	豊臣大關	巖谷秀雄	一
新約ふらず物語	永井荷風	一	鈍機翁冒險譚	セレバンテス	一
増もしや草紙	櫻痴居士	一	金剛石の原野	長田忠一	一
むら竹	不明表紙ナシ	二	伊達政宗	塚原靖	一
繪近世太平記	福井淳	一	校訂淨瑠璃名作集	大橋新太郎	一
十人十話	森林太郎	一	校訂四大奇書	〃	一
蠟梅	木下尚江	三	同馬琴傑作集	〃	一
軍人の妻乃木靜子	大久保四洲	一	八犬傳	馬琴	三
初陣	原田指月	一	さち	吐紫樓主	一

水滸傳	吐紫樓主	二	日清事件新小説	ちぬの浦浪六	二
俠客傳全集	大橋新太郎	一	戦後の日本	村松柳江	二
校訂謙倉顯晦録	〃	一	當世五人男	村上信	一
三馬傑作集	〃	一	冷熱	尾崎紅葉	一
京傳傑作集	〃	一	花車	村上信	一
良人の自由	木下尚江	三	浮木丸	尾崎紅葉	一
日本小説年表	東海敬士	一	反古袋	小杉天外	一
金色夜叉	尾崎紅葉	三	御落胤	櫻痴居士	一
青葡萄	〃	一	浮世草紙	浪六	一
霜夜鐘十字の辻占	大淵涉	一	憎の言	柴田顯信	一
涙六漫筆	村上信	一	新小説	幸田成行	一
葛紅葉	川上亮	一	志のぶの露	戸澤正保	一

八軒長屋	村上信	三	乳人政岡	碧瑠璃園	二
そこつ長屋	〃	一	馬鹿野郎	村上信	一
世間學	〃	一	旅の友	博文館	一
濱六傑作集	〃	二	江戸城明け渡し	高安月郊	一
裸林の人間	〃	二	列國變局志	肝付兼行	一
山鹿素行	碧瑠璃園	一	黒潮	徳富健次郎	一
一葉全集	大橋又五郎	一	飛行機	玉田玉秀濟	一
田毎のかゝみ	鏡花小史	一	黒田健次	村上信	三
忠烈美譚	東京國民書院	一	小萩集	幸田露伴	一
東洋義民 佐倉宗五郎	桃林	一	各宗高僧物語	横井雪庵	一
海のひみつ	尾崎徳太郎	一	王冠	長田忠一	一
東京の裏面	永澤金之助	一	月夜鴉	遅塚鹿水	一

雲井集人	松華庵	一	肉山最後の決戦	吉澤時男	一
時平公七笑殘靈	櫻痴外一名士	一	水滸傳後傳	文事堂	八
餅むしろ	博文館	一	夢想兵衛胡蝶物語	和田篤太郎	一
片えくぼ	尾崎徳次郎	一	繪本吳越軍談	記事	一
新知事	徳山人	一	十人晝夜帯叙	大原政吉出版	一
夕すゞみ	山田美妙	一	國民小説	民友社	一
葛の細道	浪六	一	島左近	澁柿園	一
女馬士	柳浪	一	虚榮の市	國民文庫	二
軍神廣瀬中佐	博文館	一	北條九代記	博文館	一
競馬	〃	一	膝栗毛	〃	一
塙右衛門	宮崎三味	一	仇討小説集	〃	一
愛さ心	戸澤正保	一			

大岡政談	博文館	裸の年	ピリニヤーク著	一
七橋八縫	中野正剛	秘密の女	富士辰馬譯	一
スケッチブック	淺野和二郎	赤い屋根	オツブシハイム著 若目田三郎譯	一
新兵生立の記	原田指月	輪廻	谷崎潤一郎著	一
刺客岡田滿	眞繼義太郎	赤い靈魂	森田草平著	一
白痴	佐藤義亮	黒い影	倉田百三著	一
歡樂	永井荷風	主權妻權	ルキユー著 岸島武夫譯	一
性の衛生	羽太銳治	藤村讀本	佐々木邦著	一
玉さなり姫	渡邊默禪	若人の胸	島崎藤村著	六
獄事談	小河茲次郎	農民春夏秋冬	小林操著	一
監獄夢物語	〃	植民夜話	レイモンド著 加藤譯	四
ノアノア	前川堅市譯	琥珀のパイプ	東郷實著	一
			甲賀三郎著	一

桃花扇	孔尚任作 山口剛譯	親鳥子鳥	佐々木邦著	一
愛する人々へ	有島武郎遺稿	毒舌	浪六著	一
窓展く	佐藤春夫	受難華	菊地寛著	一
魂の彫刻	賀川豊彦	●第三門文藝		
奔流	三宅ヤス子	綺堂戯曲集	岡本綺堂	一〇
創作結婚	小林鶯里	ワレンシユータイン	ワレンシユータイン	一
求め得ぬ嘆き	沖野岩三郎	映畫ミ演藝	朝日新聞社	一
追放	江馬修	菊地寛戯曲集	菊地寛著	三
眼	小泉惣之助	能樂大辭典	正田章著	二
梟	〃	謡曲文粹	博文館	一
父	〃	集林子戯曲	垣田純郎著	四
或る學生の手記	西尾操著	評註日本淨瑠璃叢書	明法堂	三

新評戯曲	學海居士	潤一郎戯曲傑作集	谷崎潤一郎
新曲琵琶朗吟集	文友堂	悲戯喜戯七篇	岸田國士譯
通俗琵琶史談	荒牧守	世界のオペラ	柴田環著
薩摩孤月吟	小川尙榮堂	セザンヌ	有島生馬著
新薩摩びは歌	津島松溪	農民文藝十六講	犬田卯編
妙曲琵琶歌	小川寅松	戯曲愛	武者小路實篤著
名作淨瑠璃集	小林紫軒	ハムレット	セキスピア著 坪内逍遙譯
戯曲郵便局	小林進譯	『ベニス』の商人	ク
第一幕物	森林太郎	飢餓王	アンドレエフ作 熊澤復六譯
黍圃死落葉	坪内雄藏	●第三、文學少年讀物	學窓餘談社
ベリアスト	島村龍太郎	奮闘ろびんそん	諸星寅一
メリサント女王七	伊井由三純	美談くろうそ	
伊井脚本集		不知の鐘	

世界の探検日の丸王	吉丸一昌	波のり船	小波
お伽噺し	本間久雄	アンデルセン	和田博士共譯
全アラビヤナイト	長田幹彦	教育お伽原著	星野樂天共譯
アンデルセンお伽噺	巖谷秀雄	東乃子供	秋田雨雀
お伽口演集	和田鹽謙三讀	徳川家康	矢部五洲
グリムお伽噺	早川貞水	ロビンソン漂流記	表紙ナシ
教育講談第三輯	巖谷秀雄	第二少年武士道	熊田葦城
いろは子供十八景	山田枯柳	世界一週飛行旅行	高瀬劇
スケッチ	巖谷小波	教育假作物語	文部省
最新子供の	板倉賛治	秘密國探險	高野巽
智識聞きたがる談	大町桂月	教育人の一心	早川貞一
小波新お伽百話	海軍協會	少年武士道	熊田葦城
繪畫の手ほごき		落語名作揃	不明
日本人の弓矢			
軍艦の話			

剛健主義	福島大將	桃太郎	不	博文館	一
空中戦争	不明	大塔宮	博文館	一	一
新作お伽集	中村西郊	シ 1 ヅ	柿山清	一	一
小河跋	武狭世界社	援韓雄略	佐田白川	一	一
新三傑	大橋新太郎	新伏姫	平尾徳五郎	一	一
春駒	巖谷秀雄	義經譽の旗風	不	一	一
教育講談第二輯	早川貞水	小學六學年	小學館	一	二
うねく川	與謝野晶子	●第四門歴史書類	小學	二	二
通俗教育はなし	池田林俤	倒叙日本史	吉田東伍	一	一
道話	佐藤先生譯	幕末小史	戸川殘花	一	三
正伊蘇普物語	志垣寛	文祿慶長役	滿鐵	一	一
教員物語	熊田葦城	開國五十年史	大隅重信	二	一
阿部伊勢守					

大役 小役	志賀重昂	維新史	本多辰郎	一
文祿、慶長朝鮮の役	北山豊山	徳川幕府時代史	池田晃淵	一
近世日本織田氏時代 國民史 前中後	徳宮猪一郎	戊辰戦史	川崎紫山	一
豊臣氏時代	早稲田大學出版部	通俗二十一史	高田早苗	一
日本古代史	〃	改大日本裏面史	樋口麗陽	一
奈良朝史	早稲田大學	日本讀史地圖	吉田東伍	一
平安朝史	〃	大日本通史	萩野由之	一
鎌倉時代史	〃	明月記	國書刊	三
南北朝時代史	久米邦武	西南記傳	黒龍會本部	一
室町時代史	渡邊世祐	西南戦史	川崎紫山	一
安土桃山時代史	〃	日清戦史	川崎三郎	一
幕末史	小林庄次郎	日清陸戦史	〃	一

日清海戰史	日本戰史關ヶ原役	同補傳	同文書	同附表附圖	日露戰役史	日露戰役記念小鑑	日露海戰記	日露戰史	日露大戰史	本朝大國史	史料大觀	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	中川佐和子	海軍勳功表彰會	宮部力次	大成社	櫻井庄吉	高頭忠造	
一	一	一	一	一	一	一	二	四	一	一	四	
人情日本史	明治御大裏記	足利十五代史	大分市史	十八櫻田快舉錄	烈七櫻田快舉錄	開國安政記事	壯快熊本籠城	撰大日本帝國史	日本歷史問答	文化觀日本歷史	聖代四十五年史	伏敵編
伊藤銀月	坂本辰之助	國史研究會	大分市役所	高橋筑峰	內藤耻賢	小西可東	松井廣吉	成分館	龍居松之助	物集高量	湯地丈雄	
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二	二	

七年史	譯文大日本史	日露戰史大全	日露戰役記念小鑑	讀史論集	日露大戰記念錄	支那疆域沿革圖	大阪市史附圖	歷史地理	舊幕府	古戰場及續篇	新日本への道
北原雅長	山路彌吉譯	博信館	中川佐知子	山路彌吉	內田安藏	重埜安釋	日本歷史地理	富山房	日本歷史地理	海軍中將	佐藤鐵太郎
二	五	二	一	一	二	一	四	二	二	二	一
東洋歷史集成	東洋歷史講義	十八史略講義	現代支那	支那開化史	支那政黨結社史	白人の世界か	西洋文明史觀	西洋全史	最近埃及		
櫻井明太郎	河野元三	博文館	波多野乾一	田口卯吉	竹內克己	拍田忠一	中村久四郎	齋藤斐章	瀨川秀雄	文明協會	
三	四	二	一	一	一	二	一	一	三	二	

●東洋史書類

●西洋史書類

カアラ イレル フランス大革命史	高橋五郎譯	四	同 國士の經綸	〃	一
西洋史 新話 ギリシヤ撥亂	箕作元八	二	同 偉國民の奮闘	〃	一
同 武士道の華	〃	一	同 偉傑の雄飛	〃	一
同 オルレヤンノ乙女	〃	一	土耳其帝國	民友社	一
同 北方ノ星王	〃	一	ソビエツト歴史地圖	淺野利三郎著	一
近世 歐米 歴史之片影	德富健次郎	一	露西亞的研究	〃	一
日耳曼史	野口竹次郎	一	◆萬國史地圖	〃	一
平和なき歐羅巴	文明協會	一	世界近世史	松平康國	一
西洋中世の文化	大類伸	一	世界史綱	坂本健一	一
露西亞史	山本利喜雄	一	東西六千年	山路愛三	一
西洋新話 テーマの勃興	箕作元八	一	現代世界の史的觀察	大類伸	一
			史眼に映ずる世界大	箕作元八	一
			世界大戦史	〃	一

世界文化史大系	波多野日打	一	家紋の由來	生田經德	一
同 索引	〃	五	日露戦役勳功美談	神戸新聞社	一
十九世紀末年史	文明協會	一	征露土産	松本恒吉	一
現代文明史	〃	一	武士道	安部正人	一
露艦隊全滅行全	押川方存	一	近古史談	泊井秋梧	一
日魯 交渉 北海道史稿	岡本柳之助	一	大禮愛知縣記念錄	御大禮 愛知縣奉祝會	二
南征史	堀井八郎	一	彦根山由來記	中村不能齋	一
我國暴狀誌	曾根俊虎	一	日光山沿革略記	輪時々務所出發	一
海上權力史論	東邦協會	一	日本風俗史	坂本健一	一
歴史叢話	箕作元八	一	酒川新寒戦捷之偉蹟	東郷吉太郎	一
新選隊	服部北溟	一	啓蒙日本外史	〃	一
國史便覽	重田定一外二名	一	甲子夜話	〃	三

甲子夜話續篇	京都法學會	三	校藩輪譜	新井太吉	七
大禮記念號	圖書刊行會	一	橋本國史	大成館	七
集古十集	川本達著	四	記事國史提要	南薰社	六
對馬遺事	ベネアトクロオチエ著 羽仁五郎譯	一	繪本通俗三國志		二〇
歴史叙述の 理論及歴史		一	官唐鑑		五
校正日本外史	賴山陽	一二	讀史餘論	新井君美	六
日本外史新譯	久保得二釋	一一	五代史	須原屋茂兵衛	一五
日本外史字類大全	阿村與一郎	四	萬國史略		二
皇朝史略	青山量介	一〇	師範學萬國史略	鳳文館	六
續皇朝史略	ク	五	尊攘紀事	西村茂樹	三〇
訂續々皇朝史略	石村貞一	七	泰西史鑑	林平次郎	七
大日本史	徳川安藏	二五	正標註十八史略		七

歐洲道德史	林平次郎	一	ミハエ美術考古 リス氏學發見史	濱田耕作著	一
世界通史	和田萬吉	一	●一般歴史の部	徳富猪一郎	三
萬國歷史	木村鷹太郎	一	近世日本國民史	ク	三
萬國歷史	記事ナシ	一	豊太閣と其家族	渡邊世祐	一
萬國歷史	ク	二	史話俗談	關根正直	一
萬國歷史	下山寛一郎	一	讀史百話	喜田貞吉	一
日米交渉五十年史	文明協會	一	戰國華吹雪の花	松本貞雄	一
世界史綱	齋藤斐章	一	隱たる明治裏面史	伊藤痴遊	一
世界讀史地圖	依田雄甫	二	國史美談	北垣恭次郎	三
史海	秀英舎發行	二六	裏面より 見たる日本歴史	久米邦武	一
ナポレオン時代史	箕作元八	一	元快舉眞相錄	福本日南	一
世界國情大觀	高木斐川	一			

漢和 兩文 大日本 史論叢 集	保元 物語註 譯	平家 物語註 譯	東西 英雄一 夕語	元祿 快樂錄 真相	明治 の記念 と其批 判	和漢 洋年表	趣味 の日本 史	日鮮 史話	增補 訂正 幕府時 代の長 崎	下關 春帆 兩雄の 會見	樓ニ 於ケル	讀史 餘錄
井川 邊水譯	内藤 恥賢	平井 賴吉	三宅 雄太郎	福本 日南	〃	近藤 圭照	新保 磐次	松田 用述	長崎 市役所	井川 邊水譯	塚越 芳太郎	一
一	一	一	一	四	一	一	三	一	一	一	一	一
元祿 快樂 別錄	歴史 と人物	人物 研究 と史論	名古屋 市史	京都 守護職 始末	聖德 餘聞	台灣 志	史記 評林	日本 略史	資治 通鑑	山口 縣史 略	增補 訂正 史記 評林	一
三田 村玄龍	三浦 周行	横山 健堂	名古屋 市役所	山川 浩遺	三省 堂	伊能 嘉矩	前田 園	近藤 清吉	嵩山 堂	嵩山 堂	嵩山 堂	二五
一	一	一	一〇	一	一	二	三〇	四	七〇	五	二五	一

續十八 史略讀 本	國史 評林	日本 外史補	寶祚 明鑑	戰國 策正解	寶祚 明鑑附 言	左	日本 政記	春秋 古傳	十八 史略講 義	音點 春秋古 傳評節 句解校 本	平泉 志
宮脇 通赫	羽山 尙德	北畠 氏	芳村 正乘	後彫 園藏	芳村 正乘	山城 屋佐兵 衛	土田 泰藏	野村 煥	高平 眞藤	一	一
五	一三	九	三六	一三	二五	一六	八	一四	一	八	一
春秋 古氏傳	繪本 通俗三 國志	大清 三朝事 略	海國 兵談	海國 圖志	實業 史談全	韓子	鑿工 譜略	日清 戰爭實 記	訂古今 紀要	日本 外史	正校日 本外史
林 子平	切山 聽松	川島 浩	博文 館	一	二	一	六	四	一	五五	一五
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

近世事情	漢書評林	傳記之部	洪吉童傳	平民大宰相	豐川良平	英吉利の環境と時代の生める女王エリサベス	鳳凰帖	近世名匠列傳	マルクスの生涯と學說	肥塚龍自叙傳	七英傑
杉浦重剛先生	歴代顯官錄	自由討究社	佐藤亮太郎	鷄崎熊吉	朝日融溪	渡邊霞亭	村松梢風	西雅雄	肥塚麒一	大町桂月	
大町里山	井尻常吉	鶴友會	文明協會	大成社	谷田佐一	政教社	文明協會	宮内省	早川純三郎		
九	五二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	五

賴山陽	鷹山公世紀	公爵桂太郎	明ル治天皇	世界ニ於ケ	日本紳士錄	堺利彦傳	國史研究	大隈公八十五年史	山鹿素雄	蜀山人	近藤重藏	柳澤吉保
坂本辰之助	池田成章	德富猪一郎	望月小太郎	交詢社	堺利彦	笹原助著	大隈公八十五年史	常華房	〃	〃	〃	〃
林平	伊藤仁齋	高野長英	渡邊華山	白河樂翁	平田篤胤	伊藤東涯	達磨	由比正雪	新井白石	錢屋五兵衛	上杉謙信	ハンニバル
常華房	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	大町桂月
一	一	二	一	一	一	一	一	四	一	一	一	一

歴山	大玉	幸田	成友	太田	道灌	櫻井	一義
釋迦	高山	林次郎	親鸞	聖人	福井	了雄	
閣龍	桐生	政治	竹内	式部	事迹	考	
ガ	ル	バル	ザ	イ	孝	明天	皇御
グラ	ット	ストーン	皇	陵	参	拜	記
義	貫	彌	德	平	賀	源	内
マ	ホ	メ	ツ	ト	小	山	田
成	吉	思	汗	本	河	彌	光
孔	明	安	藤	俊	明	平	野
岳	飛	笹	川	種	郎	大	鹽
世界	卅	六	文	豪	嚴	谷	季
近代	卅	六	文	豪	博	文	館

石川	丈山	掌	華	房	善	提	達	磨	國	府	犀	東
中	江	藤	樹	〃	楊	貴	妃	宮	崎	繁	吉	
眞	木	和	泉	〃	小	野	小	町	松	井	松	風
高	山	彦	九	郎	西	郷	南	洲	川	崎	三	郎
加	藤	清	正	〃	日	蓮	村	上	保			
幕	末	三	傑	川	後	藤	象	次	郎	岩	崎	英
陸	象	山	建	部	金	原	明	善	翁	碧	瑠	璃
文	天	祥	國	府	新	譯	六	雄	八	將	論	阪
虞	美	人	來	城	靜	御	前	黑	河	内	與	四
諸	葛	武	候	内	偉	人	幽	齊	池	邊	東	園
冒	武	候	内	藤	王	陽	明	詳	傳	高	瀨	武
藍	香	翁	高	橋	孟	亞	聖	西	脇	玉	章	

藤田東潮	川崎紫山	一	鴻爪痕	市島彌三郎	一
安田善次郎	川崎紫山	一	政治家としての桂公	德富猪一郎	二
大久保甲東	川崎紫山	一	明治才媛美談	熊田宗次郎	一
大村益次郎先生傳	村田峰次郎	一	在朝人士名鑑 島津日新公	東京啓發社	二
木戸松菊	川崎紫山	一	伊豫善行錄	愛媛縣教育界	一
華聖頓	福山義春	一	閩人と堂人	鶴崎鷺城	一
彼得大帝	佐藤信安	一	乃木大將言行錄	鹿野千代子	一
日本百傑傳	川崎紫山	四	家庭の頼山陽	木崎好商	一
西郷從道	〃	一	幽學全書	田尻稻次郎	一
東照公傳	中村孝也	一	吉田松陰	德富猪一郎	一
兒玉大將追仰	拓植封報社	一	福翁自傳	時事新聞社	一
新撰華族名鑑	本田積忠	一	續實錄全集	近時畫報社	一

丸山正彦傳	丸山善彦	一	高杉晉作	渡邊修二郎	一
上杉謙信傳	布施秀治	一	陸奥宗光	〃	一
弘法大師傳の研究	金剛峰寺	一	森有禮	渡邊爲藏	一
七十偉人	井野邊茂雄	一	木村重成	〃	一
大西郷の心の奥底	石井平太	一	關龍	森元駿	一
高杉晉作	横山健堂	一	武宵上	民友社	一
西郷隆盛	山路愛山	一	如漫武雷士傳	垣田純郎	一
勝海舟	渡邊爲藏	二	虞翁論	内崎作三郎	一
吉田松陰	德富猪一郎	二	ネルソン提督傳	松尾豊文郎	一
伊藤博文	伊藤銀月	二	幕末政事家	福池源一郎	一
木戸孝允	渡邊爲藏	一	クロボトキン	豊秋學人	一
井上馨	渡邊修二郎	一	政界の寧馨兒	山本實彦	一

岩崎彌太郎	内閣列傳	十二文豪マコウレ	十二文豪蘇生組來	同 ヲウヅヲウス	同 エマーソン	同 近松門左衛門	同 新井白石	同 トルストイ	同 瀧澤馬琴	同 柿本人麿	パイロソ
村松巖	玄映社	民友社	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
一	一	一	二	一	一	一	一	一	二	二	一
ジョンソン	シエレ	ゲ	頼山陽及其時代	リンコール言行録	徳川二名臣	新井白石	孔子	阪本龍馬	宗良親王	野中兼山	徳川家光
民友社	〃	〃	〃	畔土賀造	渡邊爲藏	民友社	〃	〃	酒卷愛一郎	塚起芳太郎	民友社
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

井原西鶴	詩人西行	兼奴法師	熊澤蕃山	大石良雄	勝海舟翁	吉田松陰言行録	加藤清正	山鹿素行言行録	藤公餘影	乃木大將傳	江藤新平
民友社	中龍兒	〃	民友社	雨谷一菜庵	靜古學人	五十嵐越郎	山路愛山	渡邊修二郎	古谷久綱	杉原夷山	鹿島櫻巷
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一國近世人傑傳	アルターク英雄傳	偉人クロムウエル	アカルト	アース大將傳	アンドレ	カーネギー自叙傳	ルーテル事業及生涯	泰西先哲像傳	大恩良寛	世界人傑評論	ナポレオン言行録
山方香峰	高橋五郎譯	ルーズベルト	桑木嚴翼	山室軍平	小畑久五郎	トマスカンゼー	中島力藏	相馬御風	黒澤和雄	藤吉喜一	民友社
一	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

在韓成功之九州人	高橋刀川	鍋島直茂	西江雪弦	二
石田三成	水主天姥	ネルソン傳	海軍教育本部	一
ビスマーク逸傳	増田義一	徳川慶喜公傳	徳富猪一郎	八
ニイチエミ二詩人	登張竹風	勝海舟	ク	一
ラザール	幸徳傳次郎	タゴール詳傳	蘇武綠郎	一
名婦鑑	徳富蘆花	ゑるでる	久保天隨	一
予の見トルストイ	播磨檜吉	觀樹豪快錄	横井見明	一
マルクス傳	村上正雄	ガング審判の記	饒平名智太郎	一
偉人二十四傑	春江堂	源公和尚ミ殺生石	横井見明	一
日蓮上人	熊田葦城	當面のフースヒー	高橋鐵太郎	一
リンコルン	内崎作三郎	新學の先驅	土屋元作	一
大楠公夫人	碧瑠璃園	ジョツフル元師	日佛協會	一

改訂西肥遺芳	狩野雄一	同附圖	鳥居龍藏	二
增補西肥遺芳	末松謙澄	東洋八種學 極東民族第一卷	椿本義一	一
孝子伊藤公	川島元次郎	臺灣大觀	山崎直方	一〇
徳初期の海外貿易家	阪崎斌	大日本地誌	佐藤傳藏	一
陸奥宗光	足立荒人	東京市政概要	民友社	一
松菊餘影	民友社	群馬縣案内	群馬縣協賛會	一
五山詩僧傳	中島喜彙編	三重縣案内	三重縣協賛會	一
豊泉徳次郎	内閣印刷局編	言文日本地理全	富山房	一
職員錄	五年七月一日現在	一致日本地理全	ク	一
同	ク	再訂日本地理全	青木信	一
第五門地誌書	ク	大和の古今	佐藤善次郎	一
大日本地誌	ク	鎌倉大觀	群馬縣確水郡松	一
中外地理學	松島剛	大日本地誌名稱完	井町第區學事會	一

高野の志を置	井村末次郎	一	西部鐵道名稱圖會	森永規六	一
日光	田山花袋	一	不 <small>二</small> 山	小島鳥水	一
新式日本地理	嵩山堂	一	地理學小品	天津昌永	一
大正現在の台灣	東洋協會	一	御藏島概況	栗本俊吉	一
臺灣	秀英堂	一	澎湖島	東郷吉太郎	一
橫濱繁昌記	橫濱新聞社	一	新式日本地理	嵩山堂	一
名所圖會	濱田日報社	一	日本地名勝地誌	松原岩五郎	一
吉野名稱記	玉鳴館	一	京都奈良	博文館	一
航路案内	原田和作	二	京都名勝	崑岡濂	一
同	大阪商船株式會社	一	新潟雜誌	岡田有邦	二
福岡縣名勝人物誌	福岡縣	一	臺灣名勝寫真帳	記事ナシ	七
四日市志	伊藤善太郎	一	東洋大都會	石橋友吉	二

樺太案内	吉田秀吉	一	露西亞	葉山萬次郎	一
東京遊學案内	大洋堂	二	再西伯利及滿洲	民友社	一
臺灣	大阪商船會社編	一	北米の寶庫	同文館	一
●外國地誌	長谷川與三治	一	大戰の廣せる 世界地理の大變革	長瀬鳳輔	一
參考改造外國地誌	鶴見裕輔	一	山陰名勝の栞	西部鐵道管理局	一
三都物語	小川琢治著	三	南米及中央亞米利加 視察復命書	室田義文	一
改中等地理學	牧口省三郎	一	被我國視察 對照歐洲視察	前田正名	一
人生地理學	集英堂	二	歐米遊記	川田鐵彌	一
中學地理外國誌	志賀重昂	一	日本人の 新發展地南米事情	實業の日本社	二
續世界山水圖說	山縣初男	一	世界探檢十五萬哩	中村直吉	一
最新支那通志	田原天南	一	萬國地理問答	嵩山堂	一
膠州灣			支那便覽	國民新聞社	一

富源南洋西ホルネオ 實査地誌要略	支那地誌要略	浦潮の將來	旅行者寶鑑	清國一班	西比利亞一班	殖民地大鑑	山岳	地ニ關スル舊刊冊數	萬國地理新書	萬國地理問答	言文萬國地理
多田惠一	松本謙堂	服部徹	伊前銀月	西島良角	鮮滿社編	東タイムス發行	日本山岳會	三〇	富山房	嵩山堂	金港堂
一	二	一	一	一	一	一	二七	一	一	一	一
改造外國地理	大平洋ヲ諸洲の地理 圍繞スル	新中國地理書	日本地圖要略	都名弘圖會	河內名稱圖會	東京雜記	西洋事情	天田郡記略	幕府時代の長崎	小新地理	浦覽斯德
長谷川與三治	ク	山田行元	大槻修三	ナ	出雲寺文次郎			山口架之助	長崎市役所	文學社	川上俊彦
一	一	八	五	一六	六	三	三	一	二	四	一

攝津名勝圖會	萬國嘉永校定東西地 全圖	都名所圖會	大港一覽	●地圖(幅)其他	釜山圖書館新築ノ圖 府立	シヨンストン原著 世界大地圖	參謀本部閱 最新改造世界大地圖	暗射朝鮮及滿洲 代用圖	大日本分圖朝鮮地方 帝國	大日本全圖	世界改造地圖
總督府	小山精一郎										
一	一	一	一	一	七	一	一	一	一	一	一
世界地圖	日清航路交通圖	鐵道院所管線路圖	遞信地圖	歐洲戰亂地圖	日獨交戰地圖	滿洲地圖	大日本帝國全圖	極東地圖	朝鮮露陵島南部	遞信地圖	皇幹臣枝
		鐵道局				日本弘道會					
一	一	二	一	三	三	九	一	一	一	一	一

元冠	南洋地圖	片平清	戰に使用して	楚人冠
大日本帝國 郡市別人口密度圖	小野鐵二	田井新一	宇野花	田井新一
●第六門紀行文	長陵散士	田口小勝	牛之東海道旅行	田口小勝
名家紀行文選	田山花袋	小島小洲	當世	小島小洲
旅	大類伸	德富健次郎	死之塵に	德富健次郎
史蹟めぐり	田山花袋	澁川玄耳	日露戰役從軍三年	澁川玄耳
溫泉めぐり	田山花袋	山崎直方	日獨戰役小敵大敵	山崎直方
草枕	澁川柳次郎	南極探險隊 後援會	我が南洋	佐野實
藪野日本見物	日下部四郎太	伊太利紀行	南洋諸島巡行記	高木敏雄譯
信仰二人行脚	金尾種次郎	大英遊記	伊太利紀行	杉村廣太郎
佛刊	同謝野 品子寛	少年少女のため 東宮御外遊記	わたり鳥の記	梶原保人
畿内行脚	角谷勤一郎	勞農露國より歸りて	紀行文編	

巴里より	同謝野 品子寛	野口源三郎	オリンピアへの旅	野口源三郎
漫遊人國記	横山達三	鷺尾浩	少年少女のため 東宮御外遊記	鷺尾浩
新人國記	大庭景秋	上原敬二	わたり鳥の記	上原敬二
世界を家として	大町芳衛	布施勝治	勞農露國より歸りて	布施勝治
泉聲錄	澁川柳次郎	幸田露伴	紀行文編	幸田露伴
日本世界見物	谷口梨花	大杉榮	日本脱出記	大杉榮
謠曲名勝巡り	原田棟一郎	田山花袋	史蹟花袋行脚	田山花袋
紐育	黑板勝美	芥川龍之介	支那遊記	芥川龍之介
歐米文明記	東亞俱樂部	三宅賢譯	サガレン紀行	三宅賢譯
中華三千哩	德富健次郎	石井滿	金と女の國	石井滿
順禮紀行	幣原垣	太田覺眼	露西亞物語	太田覺眼
大陸修學旅行		世界通編輯所	世界通	世界通編輯所

金と女から見た米國及米國人	佐々木指月	一	四大陸遊記	井上雅二	一
皇太子殿下海外御巡遊日誌	宮内省	一	藪野日本と世界見物	澁川柳次郎	一
三部及其近傍遊覽旅行案内	野球界社	一	大英國漫遊實記	小田榮雄	一
椰子の葉蔭	川上瀧彌	一	諸國道中金の草鞋	嵩山堂發行	二四
環遊日記		一	訪歐大飛行誌	大阪朝日新聞社	一
ぐうたら道中記	佐々木邦	四	鐵道讀本	石井滿著	一
畿内見物京都ノ卷	金尾種次郎	一			
遊の女	博文館	一			
乙巳東遊日記	昆明陣榮品	一			
日本海周遊記	菊地幽芳	一			
亞細亞大陸遊行日誌並ニ民論清朝露三國	原田藤一郎	一			
修學行商日記	岡本米藏	一			

(二) 記念文庫一般圖書類

第一門神書類	圖書名	著者又ハ發行所	冊數	圖書名	著者又ハ發行所	冊數
●神書類	神社對宗教	加藤玄智	一	新約聖書 希伯來雅各書講解 徒得前後猶太	ラルネデ	一
●宗教類				新時代の宗教	姉崎正治	一
新約聖書				新約羅馬書講解	ラルネデ	一
共觀福音講解	ラルネデ		下上二	身延攻め	藻江社	一
新約聖書 同保羅之小書管講解				原始佛教思想論	木村泰賢	一
新約聖書 哥林多前後書講解				第二門哲學		
新約聖書 使徒行傳講解				老莊哲學	高瀬武次郎	一
新約聖書 約翰書管默示錄講解				哲學大集成	村田豊秋	一
				進化と人生	近淺次郎	一

年齡成長及死	文明協會	一	倫理通論全	守月晃	一
科學の奇蹟	〃	一	園園皆懺悔	松本新	一
種の起原の基礎	〃	一	人格と品位	浮田和民	一
實際ノ哲學	〃	一	論 論 鈔	記事ナシ	一
實證 道德	〃	一	巽軒國體と倫理	文學博士 吉田熊次	一
論 語 鈔	德富猪一郎	六	●心理學類		
●哲學倫理類			人物の要素	大日本文明協會	一
四書問讀大全	山鹿素行	一	風土心理學	〃	一
孟子ノ部	〃	一	革命の心理	〃	一
同 中庸ノ部	〃	一	科學思想發達史	〃	一
同 論語ノ部	〃	三	遺 傳	〃	一
孟子 通義	直下敬三	一	性 慾 研究	〃	一
道德ト品性	遠藤隆吉	一			

生命の不可思議	大日本文明協會	二	催眠心理學	福來友吉	一
犯罪心理學	〃	一	靈智學解説	エツチ、ビーブラバンキ	一
心靈學講話	デセルチス	一	透視ト念寫	福來友吉	一
シヨベン、ハウエル 意志ノ現識トシテノ 世界	姉崎正治	三	兒童心理學序說	青木誠四郎	一
心理學審義	福來友吉	一	智能測定法	上村福幸	一
文學ニ現レタル我が 國民思想ノ研究貴族 文學ノ時代	津田左右吉	一	青年男女の心理研究	白井規一	一
同 平民文學時代	〃	一	近代性慾學	羽太銳治	一
同 武士文學時代	〃	一	催眠心理學	福來友吉	一
兒童の惡癖	寺田精一	一	第三門教育書類		
早教育の天才	木村久一	一	新令模範小學校	博文堂	一
心靈現豫の問題	小熊虎之助	一	明治學制沿革史	黒田茂次郎	一
精心分析法	久保良英	一	市村改良と社會教育	佐々木吉三郎	一

女學校物語	百濟半人	教育新思潮大觀	教育思潮會
國語科教授要領	森山章之丞	兒童を愛するの道	松下吉衛
兒童衛生	内務省編纂	大詔	志田力藏
學修法	澤柳政太郎	文學の訓練	林勇
不良小年になるまで	郷津茂樹	獨逸の教育	吉田熊次郎
我が子の教育	西村伊作	米國教育概観	山内佐太郎
教育學汎論	大村桂巖	家庭教育の原理と實際	麻生正藏
國精神作興詔書衍義	巨里章三郎	世界の趨勢と 大正教育の方針	佐々木吉三郎
教政學	建部遜吾	社會實動語新衍義	建部遜吾
輓近學校教育の社會化	文都書院	少年不良化の 経路と教育	中村翁
エミール教育論	ルソー原著 内山賢次譯	普通教育に 於ける藝術的陶冶	關ユ衛
教育上ヨリ見たる 童話の新研究	小林花眠	民本主義の教育	田制重

教育の米國	吉田熊次郎	式辭林	金田謙
現思潮と教育の改造	谷本富	日本建國神話	高木敏雄
最近歐米教育 改造思潮及實際	山田敏一	日本現代文學十二講	高須芳次郎
若き者の自覺と告白	稻毛誼風	日本文學全書	大橋新太郎
國民東京講演	大隅家編修局	外國文學序說	片山伸
教育上ヨリ 見たる明治の漢字	後藤潮太郎	カールライル論說集	カールライル著 高橋五郎譯
胎教	下田次郎	敬語法の研究	山田孝雄
現代ノ教育的運動	文明協會	文談花談	畔柳都太郎
學術的發見史	〃	萬葉集大義	吉川半七
第四門文學書類		愛山文集	内山省三
●文學		蘇峰文選	民友社
黎明	エグヂウエル著 加藤朝鳥譯	苦悶の象徴	厨川白村

蜀魂	文英堂	一	打明け話	樋口勤次郎	一
山家集詳解	釋固淨	一	日本赤穂義士	熊田宗次郎	一
國歌大觀	松下大三郎	二	文藝		
文章軌範詳註全	三島毅	一	古希臘の思想と文藝	山原三郎	一
幕夏堂集	青柳網太郎	一	人民の敵	海軍大佐 太田三次郎	一
日本文學者年表	赤堀又次郎	一	第五門歴史書類		
●一般文學書類			●日本史書類		
女教師	石丸梧平	一	日本文化史	中村直勝	一
父の心配	倉田百三	一	現代史觀	三浦周行	一
勞働	木下尙江	一	下關二千年史	重山禎介	一
麗子光子	小栗風葉	一	大阪市史	大阪市參事會	七
栗の花	吉町太左門	一	日本書記通譯	飯田武郷譯	五

日露戰史(自第一至第一〇)	參謀本部編纂	一〇	西洋史話	箕作元八	一
同附圖	〃	一〇	西洋通史	漱川英雄	三
通俗日本全史	早稻田大學	二〇	クロバトキン回想錄	偕行社	三
日本大歴史	青木武助	一	日本歴史附圖	歴參考圖刊行會	二
△日本史蹟曾我兄弟		一	史蹟名勝天然記念物	瀬川光行	二
國史ノ研究		二	新大系圖	記事ナシ	五
維新史八講		一	世界大戰史	箕作元八	二
二千五百年史	竹越與三郎	一	史論叢錄	興亡史論刊行會	二
△日月天地			同	〃	二
日本史蹟續編	熊田宗次郎	七	佛蘭西革命史論	〃	一
大阪陣前後			世界史論進講錄	〃	一
日本傳説類	高本敏雄	一	ケーザル時代羅馬論	〃	一
●外國史書類					
通俗世界全史	早稻田大學	二〇			

普魯西勃興史	興亡史論刊行會	一
支那近世政治思潮	〃	一
歐洲思想史	〃	一
露西亞史論	〃	一
立國教育論	〃	一
君主經國策批判	〃	一
英國憲政論	〃	一
宋朝史論	〃	一
英國膨脹史論	〃	一
印度史觀	〃	一
近代建國史	〃	一
海戰史論	〃	一
武家興亡觀	興亡史論刊行會	一
亞歷山遠征史	〃	一
歐洲民族文化史	〃	一
政治哲學史	〃	一
君主經國策輪略提要	〃	一
通俗二十一史	早稻田大學	一
亞伯利亞	民友社	一
國際聯盟	〃	一
世界大戰批判	〃	一
ヴェルサイユ會議	〃	一
戰後の列強	〃	一
文檢用西洋通史	小林博	二

●傳記書類

孔子	西脇玉峰	一
釋迦	大屋徳成	一
基督	松本赴	一
ナポレオン傳記	奈翁全編	七
乃木大將事蹟	森林太郎	一
能久親王事蹟	〃	一
賴杏坪先生傳	重田空一	一
大鹽八平郎	幸田成太郎	一
先哲叢話	國史研究會	三
同	〃	一
日本偉人言行資料	〃	三
賣而者草	〃	一
徳川吉宗傳	國史研研會	一
徳川吉宗	〃	一
松平定信	〃	一
津輕信正外二名	〃	一
前田綱紀傳	〃	一
前田利常家	〃	一
前田利家	〃	一
立化遺秀	〃	一
本照宗時代實地附録	〃	一
桃原遺事全	〃	一
西山遺聞	〃	一
普地慶勝公履入附録	〃	一
抄録	〃	一
南龍言行錄千年ノ松	〃	一
事語繼志錄	〃	一
重矩章行記	〃	一

良將言行	國史研究會	一	富士案内	野中至	一
有斐錄	〃	一	支那旅行便覽	香川悅次	四
日蓮上人	〃	一	支那省別全誌	東亞同文會	一八
ウイレルソン	〃	一	現今之猶太種族	文明協會	一
シエツクスピア	民友社	一	海峽殖民地概覽	啓成社	一
ケルハルト	齋藤勇	一	紀行文書類		
ハーパートマン	安井彌雄	一	海遊錄	朝鮮研究會編	一
父トルストイ	川原信義	一	世界小觀	幣原垣	一
エスキアの回想	寒川鼠易	一	支那漫遊記	德富猪一郎	一
日本新立志編	柴田範治	一	マルコポーロ紀行	瓜生寅譯	一
其角研究	栗原寅次郎	二	新洋行土産	巖谷小波	一
日本歴代偉人大鑑			日本から日本へ	德富健次郎	一
●地誌書類					
教材					
研究					
大日本地理精説					

比律賓跋渉	土尾源三	一	新譯國基	足立栗園	一
南清紀行	佐藤善次郎	一	最支那事情		
●第六門政治書類			●經濟書類		
●政治書類			戦後の事業	東方經濟調査會	一
國際的現代日本	文明協會	一	戦後の支那	善生永助	一
獨逸世界政策	〃	一	歐米國債整理始末	東京交換所	一
列強權力問題	〃	一	國際經濟と國民經濟	堀江歸一	一
大正ノ政變	上田外男	一	訂正國民經濟原論	津村秀松	二
文明ノ末路	イグネエーシユ	一	増補國民經濟原論	東洋經濟	三
地方自治の振興策	勝屋英造	一	大戦と世界經濟狀態	經濟學叢書	一二
民本主義	民友社	一	通俗經濟文庫	〃	一三
政治學講義	稻田周之助	一	日本經濟叢書	〃	一三
			最新韓國事情	岡庸一	一

●法律書類

改政日本手形法	松波仁一郎	一
同商行為法	同	一
刑事訴訟法講義	小野清一郎	一
日本民法總論	鳩山秀夫	一
統計書類		
統計學概論	理學士 森 數 樹	一
社會統計論綱	法學博士 財部 靜 治	一
社會書類		
近獨逸社會思想	文明協會	二
市營ト私營	英國アール ピースザアス	一
日本社會年鑑	平山勝熊	一

一一二

新日本の教育	石川六郎	一
森林生活	水島耕一郎	一
産兒制限論	安部 磯 雄	一
労働者問題	森 戸 辰 男	一
労働問題講話	植田好太郎	一
十字街頭を往く	厨川白村	一
大和民族の醒覺	徳富猪一郎	一
社會問題批判	渡邊 鐵 藏	一
現代文化人の心理	米田庄太郎	一
最近労働運動	石川六郎	一
婦人問題	民友社	一
刑務所寫真帖	朝鮮治刊協會	一

兒童社會史

泰西婦人風俗	增田抱村	一
露西亞	下田歌子	一
朝鮮新々赤毛布	長田新濤	一
支那	佐藤竹藏	一
滑稽なる日本	相見 磐	一
英國風俗	辻本尙太室	一
西洋ハイカラ珍談	廣瀬 茂 一	一
土產	田原貞次郎	一
實地西洋風俗記		
遊覽		
露國の闇黒面		
第七門數學書類		
●數學書類		
きーぼーと微分學	吉野好九郎	一
平而三角法講義	上野 清	一
並ニ例題詳解		

チャールススミス氏
ホール式及ナイト式
大代數講義

微分學全	〃	一
積分學全	〃	一
解折幾何學	〃	一
立体幾何學	林 茂 增	一
方 程 式 論	〃	一
●理學書類		
最新遺傳論	丘淺淺次郎	一
最新生理學	越智真逸	一
科學概論	田 邊 元	一
自然地値學	横山又次郎	一
地震の科學	原田三夫	一

トム科学大義	北川三郎	七	萬有科学大系	伊澤靖端	六
天文講話	横山又次郎	一	日本鳥類圖說	内田清之助	二
理論生理學解説	越智眞逸	一	日本魚類圖說	同	一
海洋學講話	横山又次郎	一	日本昆蟲圖說	長野菊次郎	一
蒸氣原動機	關口八重吉	一	最新植物學講義	三好學	三
動物の分類と實驗	島山久重	一	大正震災誌	文明協會	四
日本鑽石學	岩崎重三	三	花木園藝	佐々木祐太郎	一
礦物界の智囊	森川共著	一	アインスタイン 相對性原理	石原純	一
新植物學講義	三好學	三	●工學書類		
植物名彙	松村任三	二	第八門工學書類		
植物系統學	池野成一郎	二	簡無線電信機製作法	阿喜多熊直	一
人体の現象	三澤力太郎	一	化學工業發明辭書	日本實業化學會	一

一一四

化學工業全書	高松豐吉	一五	大日本美術史	黒田鵬心	一
化學工木業	西田博太郎	三	自然と文化との諧調	笹川臨風	一
食品化學	慶松勝太郎	一	舞樂圖並ニ附説	弘文館	三
榮養品製造化學	田所哲太郎	一	神祇官圖、大政官圖 直言院圖、武徳殿圖	記事ナシ	五
嗜好品製造化學	石尾貞朝	一	景年畫鳥畫譜 春夏秋冬	今尾景年圖	四
實用礦物岩石鑑定吹 管分機及地價表	岩崎重三郎	一	明治、大正書畫大觀	書畫大觀刊行會	四
最新工學	石川六郎	一	書畫大觀乾坤	同	二
第九門 兵事			插花百規	挿畫百規刊行會	二
軍隊と社會問題	佐藤銅次郎	一	御大襄儀	小川一眞	二
戰術學大意	不動商會	一	國際御成婚記念號	大正通信社	二
小戰例詳論及問題	兵事雜誌社	一	對外美術大觀	永山時英	一
第十門美術書類			史科美術大觀	上野竹次郎	一
五體字鑑	松田舒	一二	鳳		

一一五

トルストイ畫譜	片山 伸	一	近世銀行簿記	吉田 良三	一
良寛和尚遺墨集	相馬 昌治	一	利邇早見表	實業ノ日本	二
大禮記錄	内閣書記官室 記録課	一	商業政策	津村 秀松	二
●諸藝書類			最近商工史	報知社	一
樂聖ワーリヤー	田村 寛貞	一	商業書式	高等商業學校	一
謠聲の出し方 典段名扱ヒ	齊藤 香村	一	●農工業書類		
謠ヒ援二百十番	能學書院	一	歐米之製造業	文明協會	二
藝術と道德	西田 幾太郎	一	大日本農史	博文館	一
第十一門 産業			最水産製造講義	伊谷以知二郎	二
●商業書類			國民教育工業講話	小野辰次郎	一
商業政策	津村 秀松	二	食糧問題	木村金太郎	一
商業原論	中村 茂男	一	第十二門 書類	石川 六郎	一

抱月集	島村 抱月	八	英國小學讀本	世界文庫刊行會	二
ユーゴー全集	ユーゴー全集 刊行會	一二	米國小學讀本	同	二
トルストイ全集	社翁全集刊行會	一四	獨逸小學讀本	同	二
アインシュタイン全集	改造社	四	佛國小學讀本	同	二
歐外全集	歐外全集刊行會	一七	伊國小學讀本	同	一
漱石全集	夏目 純一	一三	結婚の契約	同	一
益軒全集	益軒會編纂	八	故實大内裡圖考證	今泉 定介	一四
ゲーテ全集	聚英閣	一三	同 拾荷抄	吉川半七發行	三
國譯漢文大成	國民文庫刊行會	四〇	同建武年中行事略解	谷村掃部略解	一
精神修養逸話の泉	高島 平三郎	一八	同禁秘抄考註	記事ナシ	三
近松門左衛門全集	春陽堂	八	同歴世服飾考	ノ	五
世界學教育	世界文庫刊行會	三八	同御代有職袖中抄全 同始折有職袖中抄全	今泉 定介	一

故實安藤隨筆	記事ナシ	一四	中昔京師地圖	矢野太郎	二
叢書安藤隨筆	〃	〃	國史淨世の有様	〃	〃
同裝束集成	〃	〃	叢書冠帽圖會	〃	〃
同本朝軍器考及附圖	〃	〃	同鏡着用次用	〃	〃
同軍用記	〃	〃	支那研究叢書	東亞實進社	六
同武家名目抄職名部	〃	〃	露伴承書後編	幸田露伴	一
同尙古鍔色一覽	吉川半七	二	帆足萬里全集	帆足記念圖書館	二
同織文圖會	〃	〃	舞樂圖說	〃	〃
同裝束着用圖	弘文館	七	無樂圖右左	〃	〃
同輿車圖考並附圖	吉川半七	三	新皇學叢書	文學博士 高見	三
同安齊雜考	〃	〃	第十三門醫學書類	〃	〃
尊卑分脈	弘文館	二	兒童保健講話資料	〃	〃
貞文雜記	〃	〃	學校衛生講話資料	大潮安俊	一

岡田靜坐法新研究	岸本熊武	一	哲學大辭典	同文館	四
最新家庭醫學	伊藤尙賢外三名	一	經濟大辭典	〃	九
肺の健康法	北里柴三郎	一	醫學大辭典	〃	四
醫學上ヨリ見た婦人	久慈直太郎	一	教育大辭典	〃	二
スタイナーツバ氏	柳保三郎	一	農業大辭典	〃	二
若返り法研究	赤木勘三郎	一	支那語大辭典	石山福治	一
和漢藥製劑纂	〃	〃	基督教大辭典	高木壬太郎	一
第十四門隨筆	〃	〃	字源	管野道明	一
退耕錄	澤柳政太郎	一	姓氏家系辭書	太田亮	一
人間禮拜	與謝野品子	一	文藝百科全書	早稻田大學	一
●雜書類	〃	〃	訂正外來語辭典	勝屋英造	一
釜山大觀	大曲重義編纂	一	諺語大辭典	藤井乙男	一
第十五門辭書辭典	〃	〃	〃	〃	〃

言葉の泉	落合直文	三
佛敎大辭典	佛敎大學	三
大日本國語辭典		五
廣文庫辭書索引	物集高見	二〇
康避字典	記事ナシ	四〇
廣宇林玉篇大全	いろは書房	一
第十六門雜書		
鬼		一
凡人	高橋虞子	一
大正震災誌	內務省	四

第二部

(一) 圖書館費鮮滿圖書類

圖書名	著者又ハ發行所	冊數	圖書名	著者又ハ發行所	冊數
第一門神書類			第三門文學文藝		
●宗教類			無情	春園作	一
侍天教の教旨	細井肇	一	傳説の朝鮮	三輪環	一
東經正義			開拓者	春園作	一
鳳凰琴			三隱集	朝古書發行	一
第二門教育書			珠淵選集	珠淵選集發行部	一
朝鮮教育論	幣原垣	一	東文選	朝鮮古書刊行	一四
朝鮮諸學校入學便覽	佐々木郷見	一	三峰集	〃	一
京城遊學案内	阿部駿一郎	三			
農業學校員講習會講演集	總督府學務局	一			

退溪集	同	新鮮朝鮮會語	洪 爽 鉉
角千先生實地 看羊錄東京雜記	朝鮮研究會	韓譯重刊東語初階	藤 山 雷 太
朝鮮藝文誌	總督府	日清會語	西 島 良 再
龍飛御天顏	朝鮮古書刊行	國語學書目解題	東京帝國大學
第四門語學書類		國語休書翰文に 關する調査報告	文務省內 國語調査會
獨韓語大成全	伊藤榮吉	朝鮮國語辭典	總督府
朝鮮語研究	小林正成	鮮譯國語大辭典	松岡謙治
實地 應用朝鮮語獨學	哲學書院發行	支那語自習完璧	東亞實進社
日韓兩國語同系論	金澤庄三郎	第五門歷史書類	
日韓通話	國分國夫	朝鮮史講座 特別講義 分類史	朝鮮史學會
日韓英三國對話	赤峰瀨一郎	朝鮮四千年史	青柳南冥
實用韓語學	島井浩	李朝五百年史	朝鮮研究會

朝鮮文代史論	細井肇	朝鮮征代記	黒川真道
朝鮮年代記	奧田一夫	三國史記全	朝鮮古書刊行
朝鮮開化史	恒屋盛服	東 寰 錄 全 勃海考、高麗古都、 北與要選、 並寒記略、高麗圖經	〃
日韓古史斷	吉田東伍	大 東 野 乘	〃
新羅史	福田芳之助	日韓上古史ノ一裏面	椎川龜五郎
朝鮮併合史	釋尾東邦	朝鮮最近史 舊韓國史併合	戸崎薫雄
日韓通交史附釜山史	釜山甲寅會	朝鮮史話ト史蹟	檜崎觀一
同近代記	〃	高麗史	青柳南冥
鴨綠江製材無限 公司沿革史	浦部慶三郎	三國史記	手島謙吉
日韓古蹟	日韓書房	仁川開港二十五年史	朝鮮研究會
新朝鮮	青柳南冥	元山發展史	加藤和三郎
東史綱目	朝鮮古書刊行		高尼新右衛門

征韓偉略	朝鮮征伐記	征韓論實相	增文獻備考正誤	同文獻備考	莊陵續誌	平壤續誌	東國季相集	東國通鑑	朝鮮歴史地理	通文館誌全	紀年兒覽	大典會通全
〃	黑川真道	煙山專太郎	記事ナシ	〃	朝鮮研究會	〃	〃	〃	南滿鐵道	朝鮮古書刊行	〃	〃
五	一	一	一	五〇	一	四	四	三	二	二	一	一
荅峰類說	海東名臣錄	徵瑟錄全	鮮人ノ記セル 豊太閣征韓戰記	朝鮮研究會	文獻提要	朝鮮徵瑟錄	朝鮮古書刊行會	傳記書類	大院君實傳	朝鮮紳士錄	朝鮮人事興信錄	朝鮮紳士名鑑
〃	〃	〃	朝鮮研究會	李定求	朝鮮古書刊行會	出雲寺和泉椽	出雲寺和泉椽	〃	山中峰雄	高木久馬太	朝鮮新聞社	日本電氣通信 京城支局
二	一	一	一	一	一	四	四	〃	五	二	一	一

在韓人士名鑑	最新韓國事情紳士錄	在韓內地人紳士名鑑	職員錄	活躍秘史 滿蒙夜話	第六門地誌書類	滿蒙の富源と現勢	韓國誌	大連案内	滿洲歴史地圖	北滿洲	東蒙古
中田孝之介	小松悦二	朝鮮公論社	總督府	西岡士郎著	應武龍右衛門	農商務省山林局	長谷川良之助	滿洲鐵	外務省通信局	關東都督府	〃
一	一	一	九	一	一	一	一	一	一	一	一
滿洲發達史	東部內蒙古事情	最新韓國實業指針	韓國案内	渡韓者心得	寰瀛水路誌	東亞各港誌	新東國輿地勝覽	關島事情	最新朝鮮地理誌	最新韓國事情	黎明之朝鮮
稻葉岩吉	農商務省工務局	寶文館	香月源太郎	宮川長江	海軍水路部	參謀本部	淵上拓殖	東洋拓殖	大田才次郎	岡庸一	金谷榮雄
一	一	一	一	一	一	一	三	一	三	一	二

朝鮮の實情 長白山より 見たる朝鮮人 大正十一年第一卷 現朝鮮之研究	朝鮮古書刊行	朝鮮の風習	現代蒙古の真相	火田の現状	總督府
東輿地勝覽	朝鮮古書刊行	朝鮮の風習	關東洲下滿鐵附屬地	眞繼義太郎	一
八城誌 郡縣沿革表	朝鮮古書刊行	滿洲紀要	關東洲下滿鐵附屬地	眞繼義太郎	一
四郡誌 京都雜誌	朝鮮古書刊行	滿洲紀要	關東洲下滿鐵附屬地	眞繼義太郎	一
北漢誌 東京雜誌	朝鮮古書刊行	滿洲紀要	關東洲下滿鐵附屬地	眞繼義太郎	一
朝鮮雜誌	朝鮮古書刊行	滿洲紀要	關東洲下滿鐵附屬地	眞繼義太郎	一
朝鮮彙報	朝鮮古書刊行	滿洲紀要	關東洲下滿鐵附屬地	眞繼義太郎	一
韓國地理完	朝鮮古書刊行	滿洲紀要	關東洲下滿鐵附屬地	眞繼義太郎	一
韓國二大港實勢	朝鮮古書刊行	滿洲紀要	關東洲下滿鐵附屬地	眞繼義太郎	一
大正十四年七月中旬 京城附近ニ於ケル漢 口代濫調査報告	朝鮮古書刊行	滿洲紀要	關東洲下滿鐵附屬地	眞繼義太郎	一
朝鮮部落調査觀察報告	朝鮮古書刊行	滿洲紀要	關東洲下滿鐵附屬地	眞繼義太郎	一
日韓ヨリノ對州研究	朝鮮古書刊行	滿洲紀要	關東洲下滿鐵附屬地	眞繼義太郎	一
廣島高師地歴會	朝鮮古書刊行	滿洲紀要	關東洲下滿鐵附屬地	眞繼義太郎	一
總督府地質調査所	朝鮮古書刊行	滿洲紀要	關東洲下滿鐵附屬地	眞繼義太郎	一
總督府	朝鮮古書刊行	滿洲紀要	關東洲下滿鐵附屬地	眞繼義太郎	一
昌文社	朝鮮古書刊行	滿洲紀要	關東洲下滿鐵附屬地	眞繼義太郎	一
矢津昌永	朝鮮古書刊行	滿洲紀要	關東洲下滿鐵附屬地	眞繼義太郎	一
八尾書店	朝鮮古書刊行	滿洲紀要	關東洲下滿鐵附屬地	眞繼義太郎	一
木浦誌	朝鮮古書刊行	滿洲紀要	關東洲下滿鐵附屬地	眞繼義太郎	一
大邱一	朝鮮古書刊行	滿洲紀要	關東洲下滿鐵附屬地	眞繼義太郎	一
京城繁昌記	朝鮮古書刊行	滿洲紀要	關東洲下滿鐵附屬地	眞繼義太郎	一
大邱民團史	朝鮮古書刊行	滿洲紀要	關東洲下滿鐵附屬地	眞繼義太郎	一
富の群山	朝鮮古書刊行	滿洲紀要	關東洲下滿鐵附屬地	眞繼義太郎	一
朝鮮金剛山探勝記	朝鮮古書刊行	滿洲紀要	關東洲下滿鐵附屬地	眞繼義太郎	一
釜山府勢要覽	釜山府	釜山府	釜山府	釜山府	五
釜山府勢要覽	釜山府	釜山府	釜山府	釜山府	五
木浦誌編纂會	木浦誌編纂會	木浦誌編纂會	木浦誌編纂會	木浦誌編纂會	二
三輪如鐵	三輪如鐵	三輪如鐵	三輪如鐵	三輪如鐵	二
岡良助	岡良助	岡良助	岡良助	岡良助	一
大邱府廳	大邱府廳	大邱府廳	大邱府廳	大邱府廳	一
群山新聞社	群山新聞社	群山新聞社	群山新聞社	群山新聞社	一
菊地幽芳	菊地幽芳	菊地幽芳	菊地幽芳	菊地幽芳	一

清 韓	朝鮮移民住手引草	東 拓
韓國漫遊案内	農商工部	三
朝鮮渡航案内	大農仁夫	三
慶尚道案内	農商工部	一
慶尚北海案内	農商工部	一
東朝鮮一名元山案内	朝鮮新聞社	一
京畿道案内	朝鮮新聞社	一
新京城案内	大邱商業會議所	一
本浦案内	德永薰義	一
馬山案内	平壤事業新聞社	一
忠清南道案内	釜山商業會議所	一
朝鮮露案内	勝田知久	一
朝鮮雜誌社	朝鮮新聞社	一
慶尚內務部	朝鮮新聞社	一
野手耐	朝鮮新聞社	一
京畿道	朝鮮新聞社	一
青柳南冥	朝鮮新聞社	一
中田孝之助	朝鮮新聞社	一
馬山協賛會	朝鮮新聞社	一
本道廳	朝鮮新聞社	一
勝本永次	朝鮮新聞社	一

韓國案内	香川源太郎	一	第七門紀行書類	菊地謙讓	二
新朝鮮及新滿洲	釋尾春莠	二	朝鮮諸國記	宮原小治郎	一
朝鮮事情要覽		一二	朝鮮ヨリ	松村松盛	一
最近ノ仁川	滿鮮實業社	一	明け行く朝鮮	釋尾春莠	二
元山案内	元山商業會議所	一	稼齊燕行錄	烏賀羅門	一
朝鮮鐵道案内其他舊刊		二	海行挽載	末廣重恭	一
朝鮮全道府郡面里洞名稱一覽		一	朝鮮へ行く人に	佐村八郎	一
朝鮮之事情	柳川勉	一	北征錄附北遊草	ハルビン	一
朝鮮地理	藤戸計太	一	渡鮮のすゝめ	日本商業會議所	一
朝鮮彙報	八尾書店	一	吟爾賓の概念	工藤重雄	二
韓國三大港實勢	相澤仁助	一	外人の見たる	小越平隆	一
釜山水道小誌	釜山居留民團	一	三十年前の朝鮮		
朝鮮の事情	柳川勉	一	滿洲旅行記		

滿鮮行附北支紀行 第八門政治書類

韓國政爭誌	幣原 垣	一	牧民心書	朝鮮研究會	三
伊藤公と韓國	日韓書房	一	韓國總覽	徳川勳美	一
朝鮮回顧錄	中井錦城	一	韓國殖民地	青柳南冥	一
朝鮮行政法全	萩原彦三	一	朝鮮革新策	紫山川山音二郎	一
我が見たる滿鮮	中野正剛	一	經世遺表	朝鮮研究會	二
滿鮮の鏡に映じて	〃	一	第八門法律書類		
大正朝鮮旱害救濟誌	朝鮮總督府	一	朝鮮法令輯覽	總督府	一
鮮滿の經營	細井肇	一	同	〃	一
總督政治	朝鮮研究會	一	朝鮮六法全書	巖松堂	一
クロボトキン將軍	民友社	一	韓國スル條約及法令	統監府	一
原著滿蒙處分論		一	朝鮮教育法規	總督府學務局	一
		一	朝鮮總督府	總督府	三

農業學校長 協會編

府勢一班木浦府	統計年報同	大正十三年一月現在ニ關スル調査	道勢一班	釜山港貿易概覽	慶尙道勸業十年計劃	釜山港經濟統計要覽 附社會商工工場市場	慶尙南道統計年報	釜山港勢一班	釜山府勢一覽	統計便覽	元山府勢要覽
木浦府廳	木浦商業會議所	慶尙南道	慶尙南道	釜山稅關	本道	釜山商業商議所	本道	相澤仁助	本府	總督府	元山府廳
一	五	一	四	五	一	三	九	三	二	二	一
局務大要	釜山郵便局	朝鮮總督府	遞信局	財務局	民政部殖產局	總督府	總督府水上協會	釜山村	釜山經濟調查所	關東廳	大連商業會議所
一	一	一	一	一	一	一	一	三	一	一	四

滿洲重要經濟統計表	經濟年報	滿洲事情第五輯	滿洲商工要覽附錄	關東都督統計要覽	朝鮮要覽	南滿及問軍 朝鮮人事情	朝鮮總督府 慶尙南道統計年報	韓國要覽	全羅北道道々勢要覽	統計指針	道勢概覽
大連朝鮮銀行	奉天會議所	外務省通商局	滿洲鐵道	關東廳	本道	京城日韓書店	本道	本道	京畿道	慶尙南道	慶尙南道
一	一	一	一	一	四	一	四	一	一	一	一
朝鮮ニ於ケル支那人	木浦統計年報	朝鮮總督府遞信局 電氣事業要覽	大正十二年朝鮮 總督府觀測所年報	韓國二大港實勢	大正十四年 釜山港貿易概覽	朝鮮總督府 專賣局第五年報	昭和二年編朝鮮要覽	大正十四年十月二日現在 簡易國勢調査結果表	慶尙南道道勢一班	大正十五年度 朝鮮地方財政要覽	大正十四年度 朝鮮總督府遞信要覽
總督府	木浦商業會議所	遞信局編	同觀測所編	日韓昌文社發行	釜山稅關	大正十四年度 同局編	朝鮮總督府	慶尙南道廳	朝鮮總督府 內務局	遞信局	遞信局
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

同年報	逓信局	朝鮮の人壁研究	善生永助
第十一門理科書類	總督府地質調査所	朝鮮統治の批判	朝鮮公論社
朝鮮地質圖		天運猛威	廣田誠三
第十二門隨筆		赤裸々の朝鮮	阿部薰
國境に叫ぶ	吉田直	現時の朝鮮	内藤倫政
第十三門財政書類		朝鮮の物語集	高橋亨
韓國財政施設綱要	荒井賢太郎	朝鮮野談集	朝鮮研究會
第十四門社會書類		朝鮮風俗集	蒲田貞敬
朝鮮の群衆	總督府	悲しき國	今村柄
朝鮮社會考	文星社	朝鮮の風習	山地白雨
朝鮮を直視して	龜田榮吉	第十五門工學書類	總督府
朝鮮の市場	總督府		

朝鮮鑛石學及探鑛法	安藤善四郎	朝鮮水産共進會同協贊會事務報告	協贊會
釜山鑿手工事報告	不詳	南滿鐵道沿線寫真帳	南滿鐵道會社
東京帝國大學工科學術報告	東京帝大工科大学	德壽宮國葬畫帳	京城日報社
韓國建築調査	鐵道局	京天線寫真帳	鐵道局
鴨綠江橋梁工事報告及附屬圖		第十七門產業書類	
第十六門美術書類		朝鮮副業全書	朝鮮副業獎勵會
第一回朝鮮美術展覽會圖錄	朝鮮寫真通信社	朝鮮人ノ商業	總督府
第二回同	朝鮮古書刊行會	朝鮮產業誌	山口精
朝鮮美術大觀全	滿鐵	慶北產業誌	朝鮮民報社
朝鮮金剛山	總督府鐵道局	京城協産會報告	協贊會
釜山、鴨綠間寫真帳	總督府協贊會	陸地綿裁培沿革史	木浦商業會議所
臨時恩賜金授産事業寫真帳	蒙古協會	南韓ノ實業	青柳網太郎
蒙古寫真帳			

韓國水産誌	農商工部水産局	四	朝鮮通漁事情全	團々社書店	一
南滿洲農業概況	滿鐵	一	自光緒二十二年朝鮮通商至十九年三關貿易	元山海關稅務所	八
滿蒙ニ於ケル國際運送ノ事業	小日山直登	一	東拓十年史	本社	一
滿蒙宣傳號	日滿通信社	一	臨時恩賜金由來及其事業概要	總督府	一
旅順商工案内	旅順商工會	一	赤心一片	廣江澤次郎	一
鴨綠製材無限公司案内	浦部廣三郎	一	人參病害研究ノ一端	總督府 開城出張所	一
商工要覽	滿鐵	一	園藝報告第六號	森島支場	一
市街地の商團	總督府	一	害虫圖解	總督府勸業	一
朝鮮商品ト地理	納富由三	一	朝鮮の産牛	肥塚正太	一
間島産業調査書	統監府	一	礦區一覽	鮮滿工業社	一
明治拓殖博覽會報告	本會	一	慶北産業誌	朝鮮民報社	一
産業第一ノ朝鮮	今成天外	一	日韓貿易策	田端正平	一

産業ニ關スル舊刊	關東都督府	三	專賣局事業概要	同專賣局	一
作物蠶	關東都督府	二	大連商工名錄	大連商業會議所	一
滿洲所取引慣習一斑	〃	二	第十八門叢書類		
滿洲ニ於ケル棉布	〃	一	燃藜室記述	釋尾春菴	九
關東洲鹽業	〃	二	海東經史	〃	一
滿洲大豆ニ關スル調査	〃	二	南漢史	〃	二
江原道種苗場報告	江原道	一	星湖僊說額選	〃	二
京城ノ工業ト工場	京城府	一	補閑叢正言覽水	〃	一
朝鮮水産大要	京城櫻井町一ノ九八 朝鮮水産會	一	益齊集東人詩和	〃	一
朝鮮の契	朝鮮總督府	一	鮮滿叢書	自由討究社	四
大連三品事情	大連商業會議所	一	第十九門文通々信		
朝鮮の蕪業	朝鮮總督府	一	朝鮮鐵道史	鐵道局	一
			朝鮮通信事業沿革史	〃	一

交通學講授錄	山田陸槌	二	朝鮮雜記	一
韓國警備電話建設部	記事ナシ	一	第廿一門辭書	一
通信乃栗	〃	一	朝鮮圖書解題	一
郵便電信電話 ニ關スルモノ	〃	一	總督府	一
韓國鐵道線路案内	總督府鐵道局	一		
滿鐵の現況	南滿鐵道局	一		
朝鮮交通及運輸	柳川勉	一		
鮮滿運送提要	宮崎篤實	一		
第廿門雜書				
講演會講演集	京城府	一		
朝鮮書式大全	京城日報社	一		
欽定滿洲源流考	朝鮮古書刊行會	一		

(二) 記念文庫鮮滿圖書類

圖書名	著者又ハ發行所	冊數	圖書名	著者又ハ發行所	冊數
第一門歷史書類			三國遺事	朝鮮研究會	一
上之半島統治裏面史	岩本善文	一	李舜臣全集	〃	二
朝鮮始政十五年史	朝鮮毎日新聞社	一	國朝寶鑑	〃	五
新朝鮮	青柳綱太郎	一	青禁溫輯	〃	二
高麗史	朝鮮研究會	三	荅峰類說	〃	三
滿蒙通覽	福昌公司調查部	三	大韓疆域	〃	二
朝鮮外冠史	朝鮮研究會	一	元朝秘史註	〃	一
增補文獻備考	〃	一〇	朝鮮史講座特別講話一般史分類史	朝鮮史學會	三

日鮮通交史	釜山甲寅會	二	第三門語學書類		
高麗史	朝鮮研究會	三	支那語自習完璧	東亞實進社	一
漢唐遺事	〃	一	外來の研究	前田太郎	一
朝鮮四千年史	〃	一	第四門社會書類		
燕巖外史	〃	四	天逞猛威	廣岡誠三	一
東國通監	〃	六	朝鮮を直視して	亀田榮吉	一
海遊錄	〃	一	第五門美術		
李朝史	〃	一	朝鮮古蹟圖譜	總督府	四
朝鮮文化史	〃	一	第六門理學		
第二門地理書類			朝鮮博物志	青柳綱太郎	一
最新朝鮮地誌	朝鮮滿洲社	三			
滿洲起業案内		一			

昭和二年十月二十八日印刷
 昭和二年十一月一日發行

釜山府

釜山府富平町二丁目五六番地
 印刷人 川井亮吉

釜山府富平町二丁目五六番地
 印刷所 川井印刷所



NO.

**“F-M”
PAMPHLET BINDERS**

are carried in stock in the following sizes

Catalog No.	High	Wide	Thickness
851(菊倍)	30.cm.	x 22.5cm.	x 1cm.
852(四六倍)	26. „	x 18.5 „	x 1 „
853(菊)	22.5 „	x 15. „	x 1 „
854(四六)	18.5 „	x 12.5 „	x 1 „
855(特)	24. „	x 15. „	x 1 „

other sizes are made to order

LIBRARY SUPPLIES OF ALL KINDS

F. MAMIYA & CO.
OSAKA - TOKYO - FUKUOKA

終

